WOW!

2018

ワオ！

～ 和をつなぐ。輪をひろげる。～

鎌倉市市民活動センター20周年記念誌

WOW! 2018 ワオ！

～ 和をつなぐ。輪をひろげる。～

CONTENTS 鎌倉市市民活動センター 20 周年記念誌

これからの鎌倉市市民活動センター

目次…… 1

団体活動紹介　国際 …… 2

団体活動紹介　福祉 …… 5

団体活動紹介　文化 …… 8

団体活動紹介　子ども …… 15

団体活動紹介　生活環境 …… 17

団体活動紹介　自然環境 …… 20

団体活動紹介　まちづくり …… 24

勇気をくれる魔法の言葉…… 29

市民活動は“脳”に効く！…… 30

20周年に寄せて …… 31

第20回かまくら市民活動フェスティバル …… 34

鎌倉市市民活動センター運営会議 20年間のあゆみ …… 38

20年間の歩みに添えて …… 40

市職員の市民活動体験…… 42

鎌倉市市民活動センター運営会議とは…… 43

編集後記…… 44

表紙イラスト：伊藤 雅子

表紙イラスト協力：気軽にアート 高木 啓多

表紙タイトルロゴ：株式会社電通デジタル 原 恵理香

右頁空撮写真提供：鎌倉ドローン協会

「和をつなぐ。輪をひろげる。」

この道は、どこへつづいているのか。

道の向こうに、何があるのか。

NPO法の制定・施行から20年。鎌倉市市民活動センターの設立からも20年の歳月が過ぎた。

この間、私たちが希求し、活動を通して実現したことは多い。

望んで叶わなかったこともそれ以上にあるだろう。

私たちは、いつも、旅の途中。

いまの私やあなたが、未来の地平に立ったとき、何を思うだろうか。

その時、新たな驚きや喜び、そして感動を創り出すことができているだろうか。

次の世代へのバトンを、たしかな手応えで渡すことができるだろうか。

道はつづく――

持続可能な市民活動の未来へ、いま再び力強い一歩を！

鎌倉市市民活動センター（NPOセンター鎌倉・大船）

利用登録団体の活動紹介

鎌倉市には数多くの市民活動団体があり、NPOセンターに登録している団体だけでも364団体（2018年11月1日現在）を数えます。設立から100年を超えて今も盛んに活動を続けている団体もあれば、かつてNPOセンターの活動の中からスピンオフし、その後若い戦力を得てその活動領域をひろげているところもあります。それぞれが目指す到達点はちがっても、「市民自らの手で新たなフロンティアを切り拓く」という気概において大きく異なるところはありません。

明日への課題もあります。「活動資金の不足」も大きな要素ですが、多くの団体にとって喫緊の課題は「メンバーの高齢化」でしょう。放置しておけば、「絶滅危惧種」ならぬ「絶滅危惧団体」も出て来そうです。

「活動自体には大きな意義があるんだけどねえ」、「わたし達のほかにやれる人などいない」といたずらに嘆いたり、力んだりしても解決しません。次代を担うメンバーの確保なしでは、たとえ立派な理念を掲げても存続は難しいでしょう。

さあ、いまこそ、あなたの出番です。ここにご紹介する活動の中に、あなたが興味・関心を惹かれたものはありますか。あなたの考える市民活動とはどんなものですか。ぜひ、ご意見をセンターまでお寄せください。

個人の変容（ESD）による社会の変容（SDGs）

特定非営利活動法人 鎌倉ユネスコ協会

鎌倉ユネスコ協会は、平山郁夫画伯を初代会長として1988年10月に発足、現在は佐藤美智子第2代会長のもとで、UNESCO憲章の精神に基づき教育、科学、文化を通して国際平和の実現を目指して、鎌倉の地を拠点とする民間ユネスコ運動を展開しています。発足時から継続しているのは、バザーなどで資金を得て、開発途上国の識字率向上を支援するユネスコ世界寺子屋運動及びユネスコ世界遺産の保全支援活動です。一方で、鎌倉の文化資産や自然の素晴らしさを描く小中学生のコンテストである「わたしの町のたからもの絵画展」、鎌倉市内寺院と教会とが一緒に平和を祈って鐘を撞く「平和の鐘を鳴らそう」運動、並びに小中高校生によるボランティア活動を顕彰する「鎌倉ユネスコユース賞」表彰をそれぞれ毎年実施しています。また、他国の文化をよりよく理解するための外国料理教室や民族衣装試着会及び留学生交流会、並びに再生可能エネルギーや環境保全技術について学ぶ諸行事も定着してきました。

現在新たに力点を置いているのは「ESD」（持続可能な開発のための教育）です。2015年9月に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）が目指す社会の変容は、個人ひとりひとりがそれに向けて変容してこそ、すなわち市民に対するESDを推進してこそ実現できると考えているからです。（石田 喬也）

平和の鐘を鳴らそう運動（上）「鎌倉ユネスコユース賞」表彰者記念写真（下）

「あいうえお」から「新聞」まで

日本語COSMOS

日本語COSMOSは今年24周年を迎えました。

日本語教授法を受講した有志によって設立されたこのボランティアグループは、鎌倉周辺の外国籍住民への日本語指導と生活支援を目的として、週2回の日本語教室を開いています。

設立当初は中国残留孤児やその呼び寄せ家族の方々がいらっしゃいましたが、最近は国際化に伴い企業関係、国際結婚で来日する方が増えてきました。これまでに55カ国、延べ620名の方々が学習されています。10年ほど前にホームページを開設してからは、サイトを通じて訪ねて来られる方も多くなり、現在週2回の教室はどちらも大変な賑わいです。

日本で生活するのに必要な言語の習得だけではなく、日本で暮らす上での様々な問題や心配事を講師や仲間と共有できる「居場所」にもなっています。

また、2009年より鎌倉市、2014年より逗子市と、ふたつの教育委員会からの要請を受け、小中学生の日本語指導も行っています。親の事情で来日したものの、授業がわからない、友だちができないと困難を感じている子どもたちに、日本語を覚えることによって、少しでも環境に適応していく手助けをしています。

毎年12月には講師、学習者とその家族、友人、卒業生が各国料理を持ち寄って集まる「つどい」を開いています。当日は学習者によるスピーチに耳を傾け、各国料理に舌鼓を打ち、特技を堪能したりして、共に楽しい時間を過ごします。そのほか、「座禅体験」、「茶道体験」、「料理教室」のような、日本文化や各国の料理に触れる機会も企画しています。さらには鎌倉市社会福祉協議会の要請を受け、相互交流として学習者が日本人対象に母国語を教える語学教室も開かれています。（中国語、韓国語、スペイン語、タイ語、フランス語など）これらの企画や語学教室開設の支援も会員が役割を分担して、運営しています。

現在20名の会員が在籍していますが、勉強会や講師を招いた研修により、日本語指導力のさらなる向上や、外国籍の方々が抱えている課題の共有に努めています。今後ますます国際化が進み、様々な国から来日する方々が増えていくことでしょう。日本語COSMOSは地域の外国籍住民サポートを軸に、これからも時代にそって活動を推進していきます。

（楳本 春子）

2017年12月「つどい」

夏の円覚寺にて

㈱さくらコミュニティーケアサービス

地域貢献を行なっている
デイサービス
ワーキングデイわかば
☎ 0467-40-4210

認知症対応で実績のある
デイサービス
ケアサロンさくら
☎ 0467-39-5489

学生記者体験！

家庭的な雰囲気で日本語を教えています

日本語COSMOS

今回、私たちは日本語COSMOSという、外国の方に日本語を教えている団体にお話を伺い、実際に授業を見学しました。授業は初級から上級までの三段階に分かれていて、自分に合ったレベルの授業を受けることが出来ます。9つのテーブルそれぞれに先生が1人つき、数名の生徒に教えていました。出身国を尋ねると、アジア圏が多いものの、南米や欧州の方も。職業も様々で、仕事で来日して半年という方、国際結婚で子どもと一緒という方などなど。どのテーブルも賑やかで、生徒の皆さんは真剣に取り組み、とても楽しそうでした。

初級はイラストを使いながら平仮名を覚えていました。中級は、文法や日常会話などを習います。リスニングをしたり、品詞の種類にそった文を作っていたり、私たちの英語習得と似ているなと感じました。

代表の楳本さんにお話を伺ったところ、団体名は「コスモポリタン」という言葉からインドネシアの青年が考えてくれたそうです。1994年の設立以来、55ヵ国、延べ620名の人々に日本語を教えてきたというのですから、文字通り国際的な活動です。現在は約20名のメンバーで教えているとのこと。日本語を教える中で、NPOだからこそ出来ることは、生徒の皆さんの要望に応じて様々な活動が出来ることです。実際にこの日も、料理や古布を使ったわらじ作りを教えたりと、家庭的な雰囲気でした。時には人生相談に応じることもあるそうです。生徒さんに話を伺っても、ここに来るのが楽しみだと口を揃えて言っていました。最後に楳本さんが「今までの人生の恩返しでもあり、日本での良い思い出をたくさん持って欲しいという思いで続けています」とおっしゃっていたのが印象に残りました。

（北鎌倉女子学園高等学校　山浦実咲）

土曜日クラス

私たちが出来る人権活動

アムネスティ・インターナショナル鎌倉グループ

「アムネスティ・インターナショナル」は、世界人権宣言が守られる社会の実現を目指し、国境を越えて活動する市民団体です。「精神と身体の自由」、「良心の自由」、「表現の自由」を誰もが保障されることを求めています。1961年に発足し、1977年にはノーベル平和賞を受賞しました。

鎌倉グループは1988年に発足し、毎月の例会では「危機にある個人」のために手紙を書いています。また、毎年、大仏のある高徳院で行われる「鎌倉国際団体交流フェスティバル」に参加するほかにも、世界の人権侵害の実態を地元に紹介するために上映会やスピーキングツアーを行っています。

2017年には中国から人権活動家の陳光誠さんを招聘しました。自身の目が不自由なのにも関わらず、中国で障害者や農民、女性の人権侵害をなくそうと運動して逮捕、拘禁、自宅監禁された陳さんは、2012年にアメリカに亡命しました。講演に参加したおよそ90人の方々は彼の話に感動し、あらためて行動する勇気をもらいました。

私たちの活動への長年にわたる鎌倉市市民活動センターのご支援に感謝しています。

（ウィルソン・ヘザー）

大仏バザー（上）陳光誠氏による講演会（下）

学生記者体験！

『困ったときは、お互い様』を合言葉に

グループゆう（NPO法人）

鎌倉市内で家事・介護・育児等に関する生活支援事業を行っているのが「グループゆう」です。私達は、理事長の辻晴子さんにお話を伺いました。1987年に設立され、昨年には30年という節目の年を迎えました。メンバーは高齢の方が中心とのことですが、自分の生活の中で空いた時間を、誰かの手助けのために使えたらいいなとの思いから集って活動しているとのことでした。

『困ったときは、お互い様』を合言葉に、鎌倉市内に在住する方で、生活支援を必要とする方々に対してのサポートをされています。高齢者だけが対象ではなく、お母さんの育児支援にも応じているようです。「介護が中心と思われがちで、若い人にもどんどん利用してもらえると嬉しいのですが、なかなか認知されていません」とおっしゃっていました。

鎌倉市は、高齢化が進み介護に携わることができる人が少なくなっていたり、老老介護で苦労している人が多いようです。一方で若い人も周囲に手助けしてくれる人が見つからなかったり、相談相手がいなかったりと、悩みが多いようです。そんな需要に応じる意味でも、家事のサポート、訪問介護、通院介助などの仕事を通して地域の助けになればとの思いで、この活動を続けられているそうです。

辻さんは、この活動を30年にわたって継続してきたことに、「感謝の思いで一杯だ」とおっしゃっていました。それは、誰かの役に立てることでもあり、利用される方々から教えを受けることもあるからだそうです。また、NPOセンターの方々にも、日頃の活動を理解し応援してくださり、感謝しております、とのことでした。これらの言葉に30年の重みを感じ取ることができました。

（北鎌倉女子学園高等学校　坂上千星）

見守られての20年間・・・感謝を込めて

NPO法人かまくら笑ん座

「NPO法人かまくら笑ん座」誕生のきっかけは、わが子の障害でした。

このような道筋を歩ませてくれた子どもも今年、成人の日を迎えて堂々と式典に参加していました。20周年、20歳は、1つの節目で感慨深いものがあります。一言では言えない道のりでしたが、地域の方々の心強い支えと包み込む優しさのおかげで、ここまで歩いてこられました。

発達障害と告知をされてから親の会に入り、いろいろな学校、学年の方々と共に学び、地域の方々にもご理解いただきました。こうした公助の中で、すくすく成長していくわが子と向き合える幸せを感じていました。

今、かまくら笑ん座は、幼稚園から大学生までの親の会と事業として工房、カフェを運営しています。障害を越えて人と人との関わりの中で得るものがあり（「障健混在」）、隔たりのない社会での関係作り、誰もが笑って円になって座っていられるよう、そんな世の中になってほしいとの願いを込めたのが「笑ん座カフェ」です。

城廻の工房で作った品を岡本のカフェで販売したり、地域の農家さんから分けていただいた野菜を使って、美味しい料理をお出ししたりしています。そこには、笑顔が溢れています。これからもやりたかった夢に向かって、一歩一歩、進んでいきたいと思います。

（伊藤 裕美）

笑ん座カフェ

すべての障害者に
障害年金を！
社会保険労務士石川勝己事務所
石川　勝己
（生き生きライフ神奈川年金相談室）
247-0074 鎌倉市城廻 682-5
TEL・FAX 0467-47-5869
携帯 090-6306-4033
Mail kat@jiroc.com
URL http://jiroc.com
NPO障害年金支援ネットワーク会員

ベルの会　27年

特定非営利活動法人 鎌倉ホームヘルプ協会ベルの会

１９９１年、予想される高齢社会を見据え、「長い老後も誇りをもって人間らしく送れる世の中」を目指してベルの会は発足しました。まずは食を支えることから、と配食活動が根幹の事業となりました。毎週水曜日、30食の配食から始まり、市の御成町在宅サービスセンター３階に給食センターができると食数も増え、火曜・水曜ともに１００食を超える時期もありました。

調理・配達担当は勿論、当初から介護保険事業参画後も続いたヘルパー担当等、すばらしい協力会員に恵まれていたことは自他ともに認めるところです。

毎年３～４回発行の『べる通信』（最終86号）には、５月の定例総会や講演会記録と共に活動全体の記録が残され、80号までは合本も作成しました。自費出版の『台所の音が聞こえてくる』、文化出版からの依頼を受けて、『鎌倉ベルの会おすすめレシピ２０８』、『鎌倉ベルの会季節のおやつ』など多数出版しました。

２００２年にＮＰＯ法人となり、２０１１年には創立20周年パーティを開いて旧交を温めました。配食休みの８月には、毎年70人程集まり会食会を開催。おいしいお弁当と医療講座のあと、体操や歌で楽しく過ごすのが恒例でした。また11月の日帰りバス旅行は13回にわたる楽しい行事となりました。

当初は４団体の市民による配食活動がベルの会だけとなり、また２０１８年４月からは給食センターが認可保育園となることなど、やむをえない事情で27年に亘るベルの活動の幕を閉じることになりました。皆様ながらくお世話になりありがとうございました。

（谷本 紀久美）

おどりあいから 個が尊重される社会を実現！

あしおとでつながろう！プロジェクト

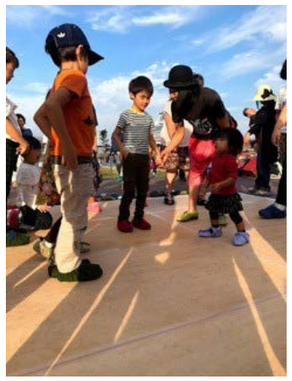
「あしおとでつながろう！プロジェクト」は、タップダンスを通じて、国籍や障害の有無を超えて、ひとがひとを尊重しあう体験を広げています。知的障害支援施設内ボランティアを経て、２０１０年秋に発足、以来鎌倉・横浜の福祉施設で毎月約１００名の方とおどりあってきました。

かまくらファンドからも２回助成いただき、簡易タップシューズ〝おとたび〟の開発と作成を行いました。縫製や洗濯は鎌倉・横浜の施設に仕事として依頼しています。

知的障害を持つ方々とおどるうちに、彼らの持つ感覚の鋭敏さや、素直に感情を表現する力に、こちらが学ぶことの方が多いことに気づかされ、２０１５年からは〝おどりの輪〟として一般の方が参加できるおどり場を開催してきました。２０１７年は横浜市芸術文化振興財団の助成を得て、ヨコハマ・パラトリエンナーレに出演するなど、さらに様々な人がおどりあう場を実現できました。

これまで何度か「障害者のための活動ですね？」と聞かれましたが、活動８年目を迎えた今、はっきりと「すべてのひとのための活動です」ということができます。

障害により発語のない方が、いかに細やかに周りの人々の気分やこちらの意図を汲んでいるか！



簡易タップシューズ「おとたび」（上）「あしおとであそぼう！　おどりの輪」（下）

歩き始めの赤ちゃんが、どんなに自信を持ってひとり輪の中央に進み出て足を踏み鳴らすか！

難しいと思われがちなリズムの根源はすべてのひとに共通する鼓動なのです。

社会生活を送る中で慣習的に「できない人」と判断し、壁を作っている状況がありますが、ともにおどることでまずひとりひとりへの尊重の気持ちが芽生えます。年代・性別・障害の有無を超えた、リズムによる相互コミュニケーションを体験すると、言語に頼らずともお互いに感じあいながら意思伝達できることがわかります。

タップダンスは、奴隷として差別されていたアフリカ系アメリカ人の日々を支えた表現芸術で、１００年で社会通念は変わることを伝えています。ひとがひとをどう扱うかで、社会はできているのかもしれません。１００年先のすべてのひとが、お互いを尊重し、笑いおどりあっていたらいいな！　と思います。

（おどる なつこ）

今だからこそ考えておきたいこと

かまくら認知症ネットワーク

認知症になっても「生活の中に楽しみを」などと言ったらどう思われるでしょう。認知症の方の支援をしていると、困難な状況に遭遇している方と出会うことも少なくありません。根治薬が開発されて、この疾患を不安に思う必要のない時代が訪れることを私も望んでいますが、そのような状況がいつ訪れるのかもわかりません。

疾患の状況がどのようであっても、日常の中に小さくても楽しむ時間をつくったり、仲間とともに外へ出かけたりすることが、暮らしを豊かにして安心を得る方法として有効であると思っています。私たちの暮らしの周りを見てみると、お店で買い物をしたり、公園でくつろいだり、子どもの成長を喜んだり、という姿が目に浮かびます。認知症になっても安心して暮らすためには、支援者である私たちが、同じ方向を向いているさまざまなグループの方々とつながって暮らしを支えていく必要を感じます。

認知症になっても、障がいがあってもどんな人でも、どんな人生でも、今を楽しむことを意識しなければ、いつ楽しめるでしょうか。人が生きる上での豊かさとは何でしょうか。今だからこそ、そんなことを考え、また追求していきたいと思っています。

（稲田 秀樹）

認知症の人と子どもたちが楽しくコラボしたコンサートの風景（上）認知症の人と市民の散歩と交流の会「かまくら散歩」（下）

学生記者体験！

認知症になっても仲間と楽しむ

かまくら認知症ネットワーク

しとしとと降る6月の雨の中。大船フラワーセンターでは、バラや花ショウブなど色とりどりの花が、水に濡れて美しく咲いています。すると、花々を背景にして、フォークデュオ「ヒデ2」のギターの演奏が始まりました。『かまくら散歩』の参加者は、ギターのリズムに合わせて手拍子をしたり、歌をくちずさんだりと、とても楽しそうな雰囲気。認知症のあるなしにかかわらず、一団には自然と笑顔が広がっていました。

「認知症などの病気になってしまった人でも、遊んだり、笑ったりできるようなことをしたい」

代表理事である稲田秀樹さんのそんな気持ちから、この会は生まれました。きっかけは認知症当事者の方々との何気ない会話。仲間として交流し、認知症の方ご本人の気持ちを大切にする、稲田さんの姿勢がよくわかります。

稲田さんによると「認知症になると引っ込み思案になり、地域との繋がりが薄れてしまう」のだそう。みんなが会を通して地域との繋がりを保ち、楽しく生きて欲しいという思いによって「かまくら認知症ネットワーク」の交流活動は続いています。

会話をしたり、リズムに合わせて手拍子をしたり、歌を口ずさんだり、なぞなぞをしたり。一見普通に見える何気ないやりとりが、思いを共有する「仲間」にしてくれるのだと思います。そうして認知症になった方々が安心して楽しく過ごしていくことは、周りの人達みんなの幸せも育んでいるのだと思います。

（鎌倉学園高等学校　小田島 圭）

「鎌倉市市民活動センター」創立20周年に寄せて

玉縄歴史の会

鎌倉市市民活動センターの創立20周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。奇しくも、本会も本年1月に創立20周年を迎えました。ひとくちに20年と申しましても、この間を支え続けて下さった諸先輩の献身的な活躍や貴センターを始め、ご支援を下さった方々の温かなご援助があったればこそと、改めて感謝の意を禁じえません。

さて、本会の活動の概略をご紹介します。

「玉縄」は大船駅の北西部の地域を指しますが、戦国時代に伊勢宗瑞（通称北条早雲）が築いた「玉縄城」を中心とした独自の史実等、鎌倉市の旧市内とは異なった歴史風俗を持った地域です。

このような地域の歴史等を研究すべく、平成10年に立ち上げたのが本会です。当初は「玉縄の歴史を語る会」と称していましたが、研究対象や地域が広がるにつれて、名称を「玉縄歴史の会」に改めました。

会の活動は、会員自身の研究成果の発表や、歴史学者・郷土史家を招いての「公開講座」を毎月開催しているほか、地域の遺跡や遺構を訪ねる「歴史散策会」を年に6回開催。その他に地域の旧家が所蔵している古文書を解読して地域の文化や風土を学ぶ「古文書の会」を毎月開催しています。また、玉縄の歴史関係の書籍等を6種類出版しています。

これからも郷土の歴史を掘り起こし、地域に伝播し、保存する活動を続けていく所存です。

貴センターには会議室を無料で快く提供していただいているほか、出版物の頒布にご協力いただいております。ますますのご発展を祈念しますとともに、今後とも、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

公開講座（上）と散策会（下）の様子

「日本演劇の民主的発展」を目指して

特定非営利活動法人 鎌倉演劇鑑賞会

「NPO法人鎌倉演劇鑑賞会」はNPOセンターが設立されたのと同時に利用登録団体になりました。この時の登録団体名は「湘南演劇鑑賞協議会」でした。1994年、鎌倉芸術館開館を機に、鎌倉、藤沢、茅ヶ崎に相次いで「湘南演劇鑑賞協議会」を設立、2000年にNPO法人格を取得しました。その後2009年に独立、「NPO法人鎌倉演劇鑑賞会」として活動を続けています。

演劇鑑賞会の活動はいわゆる市民活動とは少し趣を異にしていて、自分たちの地域にとどまらず、全国の演劇鑑賞団体、劇団や演劇創造団体と共に「日本演劇の民主的発展」を目指して活動しています。

第183回例会　劇団文化座「三婆」

会員同士が会費を持ち寄って、年間に6回演劇公演と鑑賞を行う「例会」を、鎌倉芸術館で自主運営しています。

会員制の演劇鑑賞会という性格から、他の登録団体と具体的な連携をすることは難しく、単独で活動を続けていますが、鎌倉市市民活動センター主催のフェスティバル、懇話会、交流会などには積極的に参加し、自分たちのことを発信したり、他の登録団体の皆さんから知恵や勇気をいただいたりして、交流を深めてきました。

今後も人権擁護の視点から、制約のない自由な活動が続けられるよう、登録団体はじめいろいろな団体と連携していきたいと思います。

第184回例会　劇団民藝「アンネの日記」

鎌倉市市民活動センターとの「コラボ」

鎌倉歩け歩け協会

「鎌倉歩け歩け協会」（鎌歩協）は平成4年9月創立以来、地域とのコラボレーションにも前向きでしたので、平成11年12月、鎌倉市市民活動センターへ登録、同時に故人の立石・川端理事をNPOセンターへ派遣するなど、当時の渡邉事務局長には大変お世話になりました。平成23年に鎌歩協の電話受付業務委託契約をNPOセンターと締結、その後はセンタースタッフ皆様の親切丁寧かつ適切な応対に感謝しております。

また、NPOセンターが10周年を迎えた平成19年だと思いますが、「常設ウオーキング基地局」を設置することを提案。11月に業務提携が行われ、翌年3月にはNPOセンター大船にも開設しました。

この制度では、「国際市民スポーツ連盟」（IVV）に加盟する「日本市民スポーツ連盟」（JVA）に登録した団体が「常設ウオーキング基地局」を設置し、記録や勝敗を競うこともない市民スポーツ・ウオーキングに参加する人たちの健康の増進と参加者間の友情を通して、世界平和の構築へ貢献することを目的とした活動が展開されています。

この基地局はどなたでも利用が可能で、1人でコースを歩いた場合の「参加認定」「距離認定」の公認認定を行っています。29年度の利用者は683人でした。

鎌倉市では、今年3月「かまくらヘルシーポイント」を開始しましたが、市内2基地局に11の常設コースを開設して11年間、全国でも知られるまでになっています。これからも市民の皆さまの健康長寿を願って実践していきます。鎌倉市市民活動センターが市民活動に貢献して来たことを誇りに、さらに発展することを願っております。

（鈴木 茂生）

鎌倉を歩く、鎌倉で歩く

「あゆみと発見」

鎌倉ガイド協会（特定非営利活動法人）

「鎌倉ガイド協会」は、平成3年4月に鎌倉市教養センターが開講したシルバーガイド養成講座修了者が、自主的に発足させた団体です。そして、平成20年12月に特定非営利活動法人（NPO法人）の資格を取得し、現在に至っています。現在のガイド数（協会員数）は、118名で協会主催企画ガイドから、個人・団体の観光ガイド、小中学校の校外学習への協力などを行っています。また、市内小中学校への講師派遣や生徒に史跡を案内して、地域の歴史を知ってもらう社会貢献活動も行っています。

ここ数年の案内者数は、年間2・5万～2・8万人を維持しており、「鎌倉史跡めぐり」という企画ガイドを年間50コースも提案・催行しています。協会活動の広報は、独自のチラシを作り、鎌倉市内のみならず近隣地区への配布、新聞など外部メディアへの掲載依頼も行い、ホームページと併せて行っています。100名超の会員への情報伝達には、鎌倉市市民活動センターの会議室を利用させていただき、情報交換・共有化を図っています。新人ガイドの募集は、3～4年毎に行い、約1年間の養成講座で基礎知識を習得してもらい、その後、実地研修を受けて協会の新しい戦力になっていただきます。

インバウンド観光客の増加や2020年東京オリンピック・パラリンピックに向かって、今後は、国際観光ガイドへの取り組みを本格化させたいと思っております。そして、地域・社会との良好な関係構築・推進により、一層活動に励んでいきたいと思っています。

（原田　勉）

史跡めぐりで古刹をガイドする協会員

奈良、京都の市民と共に「保全・再生・創造」のまちづくりを目指して

古都フォーラム鎌倉

古都フォーラム鎌倉の正式名称は、『古都・歴史都市　奈良・京都・鎌倉の歴史的遺産と景観を守る三都市民共同フォーラム鎌倉実行委員会』と言い、１９９０年に設立された。

奈良・京都・鎌倉の三都市民が連携し、古都・歴史都市のあるべき方向への模索は、かつて、「全国歴史的風土保存連盟」（全歴風連）の結成にお骨折りいただいた大先輩方の手で、かなり積極的に進められていたが、三古都の連帯という面では充分に機能せずに先送りとされたという経緯がある。先輩方のその思いを実現すべく、20数年を経て「三都市民共同フォーラム」、活動のキーワードを「保全・再生・創造」とし、「政策提案」団体として発足した。

世界遺産条約誕生 40 周年、日本批准 20 周年記念の京都集会で、平泉、鞆の浦、奈良、京都、鎌倉の各地から参加されたパネリストの方々。鎌倉からは桝渕文化財部長が登壇

当フォーラムが最初に手掛けたのが、「世界遺産条約の早期批准」と「古都法の見直し」を国に求めたことだった。世界遺産条約については、皆さんご存じのように、条約誕生から20年後の92年に批准された。古都法の見直しについては、「古都法で古都が守れるか」をスローガンに、線引きによる乱開発を招いたことを指摘して、包括的保存を盛り込んだ「改正要綱案」を添えて、各関係省庁へ提出した。後に歴史的風土審議会から政府への具申という形で、包括的保存を盛り込んだ見直しがなされ、後の「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）」の誕生の切っ掛けとなった。このことは、古都法が適用されている限られた歴史都市の問題ではなく、すべての都市がその地域固有の文化や歴史を有する「歴史都市」である、という都市生成の本質に結びついたといえよう。

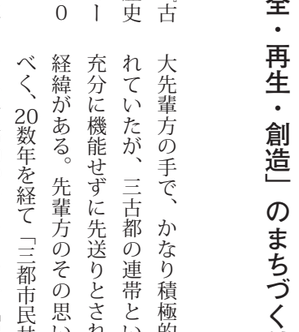
活動のキーワードの具体策をより確かなものとすべく、設立以来継続してきた１００回以上にも及ぶフィールド活動「歴史探訪」は、残念ながら高齢化に伴い、一昨年、廃止となったが、資料は逗子市の図書館に寄贈し、整理・分類され目録が作成されているので、是非閲覧あれ。

毎回参加者 40 名以上の人気の高い歴史探訪

現代に生きる私たちは、先祖の知恵に学び、我が町を先祖からの預かりものとして、歴史的遺産と景観を確かな形で後世に伝えるべく、三都連携のもと「保全・再生・創造」を目指して、ますますの成果を願っている。

この原稿を書くに当たって、２０００年に発行された「鎌倉市民活動白書　風と潮流」をザッとだが読み直してみた。京都の約十分の一の面積しかない、この小さなまちに８００を超える市民活動団体がそれぞれの分野で活発に活動している。そして、一様に鎌倉大好き人間の集まりであることを改めて再確認できたことは、この上もない悦びである。

（卯月 文）



カジュ・アート・スペースのあゆみ

カジュ・アート・スペース

鎌倉市役所の一角に「鎌倉市市民活動センター」が開設されたのが、もう20年も前のことなのかと、改めて、月日の流れの速さを感じます。その誕生と時を同じくして、「カジュ・アート・スペース」もスタートしました。自らの仕事である染織の工房のための物件探しをしていたとき、様々な方のご縁の先に、二階堂にあった古民家を使わせていただけることになったのが、そもそもの始まりです。

いろいろな分野の面白い座学も随時開催

予定より広かったので、貸しスペースを併設してみよう、いっしょに運営してくれる人を募ってみようと試行錯誤を繰り返し、現在のシェア・スタジオの形ができあがりました。

今では、７つの教室運営に加え、単発の非営利アートイベントを年に30回ほど開催しています。鎌倉市市民活動センターに、その活動の60％を占めている「非営利部門」を登録させていただいてからは、非営利情報誌の印刷、宣伝に多大なお力添えを得て、活動は大きく広がりを見せました。

私達地元のアーティストたちは「仕事しやすいところに住む」ではなく、「暮らしたいと思う土地で仕事をする」を大きな目標にあげています。すると、非営利で行っているアートイベントが、大きく自分たちの仕事にも返ってくるということを実感するに至ったのです。

4 月恒例のカジュ祭では、楽しい音楽も

鎌倉市市民活動センターは、鎌倉で活動する様々な分野の活動の情報をまとめて知ることができる存在で、ネットワークづくりに大変助けになっています。これは、こうしたコミュニティビジネスの活性化にも大きな役割を果たしていると思います。

今では、鎌倉のあちこちに古民家を再利用したシェア・スタジオが増えて、景観保持の側面からも、新しいコミュニティビジネス提案の意味からも、意義は大きいと思います。

非営利活動が盛んな町は、福祉に篤い町になりうる、文化的な彩りの濃い町になりうる、バランスの良い経済効果をあげられる町になりうる、・・・営利、非営利を同時進行で運営してみた、偽らざる実感です。

これからも鎌倉市市民活動センターと歩みを一にして、相互に非営利活動の発展に寄与できればと思います。

（たなか牧子）

AMDA
Association of Medical Doctors of Asia
救える命があれば
どこへでも
1999年コンサート、バザーの収益金にてAMDAの活動を支援することを目的として設立されました

創立82周年を迎えた「国宝史蹟研究会」

国宝史蹟研究会

「国宝史蹟研究会」の創立は昭和11年（1936）です。初代八幡義生会長は東京で関東大震災に被災し昭和2年20歳の時に鎌倉に住むことになりました。大震災による古都鎌倉の甚大な被害を目の当たりにした会長は、古社寺に伝わる貴重な文化財や史跡、鎌倉の自然景観を後世に伝えるために何か役立つことはないかと考えていました。

昭和3年に鎌倉国宝館が誕生し、不時の災害から古社寺の由緒正しい文化財を保護し、一般市民に公開する施設として誕生しました。これらの文化財は主に鎌倉～室町時代に制作された中世の代表作例であり、また東国武家社会と東アジアとの交易により中国大陸や朝鮮半島からもたらされた文物が多く、わが国の中世文化を知るために極めて意義深い資料群です。浄土宗・日蓮宗・時宗・禅宗など鎌倉新仏教の豊富な仏教美術の収蔵も大きな特徴です。国宝館には、それまで社寺に秘蔵されていた文化財が月替わりで展示されることになったのです。本会は国宝館の展示や古都鎌倉の史蹟を訪ね、その歴史や文化を学ぶために発足したので、名称を「国宝史蹟」としています。事務所は鎌倉町106番地（小町通り入り口）の会長宅でした。

当時、保養地・別荘地・文士の住む町として発展してきた鎌倉は近代都市化が進み、広域開発により自然環境に恵まれた緑豊かなたたずまいが失われてゆく状況でした。本会設立の意義と役割を再認識することは、これからの本会がめざす一つの方向性であり、変わりゆく鎌倉の良き歴史的景観を取り戻すためにも重要なことだと思っています。80年の間には英勝寺梵鐘の返還、茅ヶ崎・宝生寺善光寺式阿弥陀三尊像の重文指定、釈迦堂遺跡の国史跡指定ほか、地域貢献にもいろいろと関わってきました。戦前から会に寄贈されてきた鎌倉の歴史考古資料コレクションは県立歴史博物館に、また鎌倉地域史の研究資料は市図書館に保存されています。

年間10回の定例研究会と、5月に実施する、鎌倉と関わりの深い全国の歴史的景観地を対象とした2～3日の特別研究例会、また鎌倉周辺地域の遺跡・遺構の保存と活用について取り組みながら親睦を図っています。

（八幡 義信）

「伝大江広元石層塔」（上）星谷寺梵鐘の解説（下）

汗かきと協働について

玉縄城址まちづくり会議

会を立ち上げたときは、3年保てばいいよ、と陰口を叩かれました。私たちは玉縄城址まちづくり会議です。2006年設立、会員が50名の市民団体です。地域のランドマークである玉縄城址を守り、玉縄城の歴史を受継ぎ、これをまちづくりに活かす活動をしています。

3年寿命説を乗り越え、この4月、当会は設立から12回目の定時総会を迎えました。

私たちのとりえは、ボランティアの「汗かき」です。そして誰とも何処とも「協働」を仕掛けていく蛮勇です。私たちは「草むしり」や「お掃除」を大切にします。それは文化財を保全するだけでなく、その一汗一汗が刀鍛冶が鉄を打つようにボランティアの心を鍛えてくれます。そして互いにエゴを捨て、異質と異質が「協働」するとき、強烈な創造力が生まれることを知っています。

ボランティアと協働が生み出したものは？――玉縄城を偲ぶコースが保全されました。太鼓櫓遺構が市民緑地になり、今年、それは七曲尾根伝い12倍の面積に広がりました。念願だった玉縄城址の史跡指定の方針が決定されました。玉縄城と後北条氏、玉縄北条氏を学ぶアカデミアセミナーは30回を数えました。重文古民家、資料館での昔の暮し体験学習に延べ6000人の小学生が参加しました。龍寶寺に毎年の玉縄城主墓前祭が誕生しました。

地中の鉱脈も見る人にはちゃんと見えるようです。文化庁の補助が当会の文化活動につきました。里山活動には民間環境財団の助成がつきました。鎌倉市からは市政功労の「団体表彰」を頂きました。この5月26日に皇太子殿下、妃殿下も出席された国交省の「みどりの愛護」の表彰を受けました。また鶴岡八幡宮には活動へのご協力を頂きました。

協働によるボランティアが社会的インフラをつくる、という私たちの確信は、より強固になっています。そこから12年目の玉縄城址まちづくり会議は、あらたな「協働のステージ」に入ることにしました。行政、学校、寺社、企業、団体、市民、誰とでもどんな団体とも協働して活動を進めます。以上、これが玉縄城址まちづくり会議です。

どなたか51人目の仲間になりませんか。

（荒井 章）

学生記者体験！

玉縄城の魅力を通じたまちづくり

玉縄城址まちづくり会議

玉縄城址まちづくり会議のみなさんは主に鎌倉・玉縄城の歴史を再発見するとともに、歴史的自然環境を整備・保全しながら新たなまちづくりを行政と提携しながら行っています。2012年に築城500年祭を開催し、約50人のメンバーで活動しているとのこと。

今回、私たちはお話を伺うとともに、玉縄城址の清掃活動を行いました。この日の清掃活動は玉縄城の魅力を伝えるイベントに備え、訪れた人たちが歩きやすくするために、草や木などが散策の邪魔にならないように道をつくることでした。作業は大変でしたが、ほんの少しでも私たちのしたことが玉縄城址を広めることに繋がったと思うと嬉しくもありました。

代表の荒井章さんは「鎌倉の歴史と聞くと一番に頭に浮かぶのは、幕府や源頼朝、義経だと思う。でも、鎌倉にあった唯一の城のことが、より多くの人々に認知されるようになって欲しい」とおっしゃっていました。確かに私たちも鎌倉の歴史といえば、頼朝が幕府を築いた、という知識はあっても、玉縄城址のことは全く知りませんでした。

しかし、玉縄城址の地に立ち、お話を聴く中で、玉縄城の歴史や、後北条氏のことがとてもよくわかりました。それと共に、戦国時代の「つわものどもが夢の跡」との思いを新たにし、玉縄城址もたくさんの歴史をもったところだということを実感しました。これからもっともっとこの玉縄城址の魅力が鎌倉市、神奈川県にとどまらず、日本全土に広がってほしいと思います。

（北鎌倉女子学園高等学校　平田千空）

城址「蹴鞠場」での清掃作業を終えて（上）
小田原北條五代祭りに鎌倉市代表の玉縄城主北條氏隊として参加（下）

手作りのまちのお祭り「鎌倉路地フェスタ」

鎌倉路地フェスタ実行委員会

２００６年に鎌倉市二階堂界隈の９軒の店舗で始まった、鎌倉路地フェスタ。「アート」「路地」「鎌倉らしさ」「暮らし」をテーマに、ラリー形式で各拠点を回って楽しむお祭りです。今年で13回目、今では平均25ヶ所ほどの拠点が参加するイベントに成長しました。

その成長の原動力となったのは、参加者のまちを愛する気持ちと「ＮＰＯセンター」の存在であったと思います。低価格で印刷ができる、市内の非営利団体の情報をつかめる、スクリーンやプロジェクターの貸出がある・・・。宣伝活動や人的連携、講演会や映画上映の実施などに、どれほど助けになっていただいたことでしょう。そして、かまくらファンドという助成金制度にも、資金面でたいへんお世話になりました。

バブル崩壊後の日本は、不景気による社会不安におびえていますが、見方を変えれば、お金に踊らされる体制から解放された、とも言えるのではないでしょうか。本当に豊かに生きていくとはどういうことなのか、アートは苦しみに直面している人に何ができるのか、鎌倉らしいまちづくりとは何なのか・・・。

これからも、大きくはなくてもきめ細かい運営で、鎌倉の初夏の風物詩としての「鎌倉路地フェスタ」の運営を、ＮＰＯセンターとともに考えてゆきたいと思います。

（たなか牧子）

ストリートパフォーマンス（上）個人宅を会場にした陶芸展（下）

パソコン伝道師を目指して！

かまくらシニアネット交流会

【この指とまれ！】

かまくらシニアネット交流会（ＫＳネット）は、平成17年４月シニア情報生活アドバイザー養成講座修了生たちの中から「～を始めたい人、～を学びたい人、～で困っている人、もっと楽しいことがしたい人」などなど、様々な志を持った人たちへの呼びかけに大勢の会員が集って発足した団体です。

【ＰＣのスキルアップに燃えて】

会員による自主講座では、

①ワード・エクセル講座

②ＨＴＭＬによるＨＰ作成講座

③画像処理講座

などを開講。会員個々のスキルアップを図るとともに社会貢献を目指しました。

その他にも、

・ＮＰＯセンターが開講するＰＣ講座への講師、補助講師の派遣

・かまくら市民活動フェスティバルでのデモンストレーション（名刺作成等の実演）

・パソコン伝道師として、シニアのパソコンライフをサポート

【ゆとりあるシニアライフへ】

情緒豊かなシニアライフを目指し、スケッチの会・俳句の会・デジカメ教室・川柳を楽しむ会など、さまざまなサークルを立ち上げました。

【高齢化時代に対する社会貢献を模索】

高齢者の認知機能の維持、回復、生活意欲の向上を図る「インターネット・グループワーク」（回想法）に取り組み、鎌倉市内のデイサービス施設において、ボランティアとしてサポートしています。（年間約70回）

【これからのＫＳネット】

発足から13年、ＰＣからスマホなどＩＴ機器の多様化の波の中で、シニア情報生活アドバイザー資格取得者の減少は、当会への入会者減少につながっています。この現状を踏まえ、ＫＳネットの目的に賛同する一般市民の方々に門戸を開くとともに、会員自身のシニアライフの充実と、個々のスキルを社会貢献に生かして行くことを目指してまいります。

かまくらシニアネット交流会１０周年記念行事

鎌倉の子どもたちと共に

鎌倉友の会

鎌倉友の会は、１９３０年、羽仁もと子創刊の雑誌「婦人之友」の読者によって生まれました。翌年に創立した鎌倉友の会も以来、衣、食、住、家計、環境、子どものことを毎日の生活を通して学び合い地域に働きかけています。

託児付の例会や会員間のおさなごを持つ母の集まり「ふたばくらぶ」では羽仁もと子著作集「おさなごを発見せよ」を読書しながら日常の生活を聞き合い、励まし合っています。特に昨年は「おさなご発見Ｕ６ひろば」で幼い子どもが持っている自ら生きる力を、周りの大人がどう引き出したらよいかを見つける提案をし、会場の「婦人子供会館」には多くの若い親子が集まりました。

一方、鎌倉市立第二小学校の課外授業「わくわくクラブ」に地域のボランティア講師として小学４、５、６年を対象に「おやつクラブ」を年に５回受け持っています。途中、存続の危機もありましたが「社会の子ども達の為の仕事としては友の会らしいから続けましょう」と話し合いながら、今年で17年目をむかえます。年度初めに必ず子ども達に「人は死ぬまで食べることでこの命をいただいています。人は85歳まで生きると３６５日×85年×一日３回で９３０００回、おばさん先生達はもう、７７０００回食べて来たけど、12歳のあなた達は１３０００回、今までお家や給食を作って下さる方達のお陰で大きくなりましたが、これからはここで実習したことを復習して、食べることに興味をもって、自立してほしい」と伝えています。

ひと仕事ひと片付けで、汚れ物は次々に洗い、食卓につく時には汚れ物が無いように。ごみの捨て方など環境の話に広がることもあります。ニンジン入りパンケーキの回では「ニンジンは食べられないけど、これは食べられた」、「家の人に作ってよろこばれた」と感想をいただきました。ある会員は大学生となった生徒と再会し確かな学びを実感しました。親子が笑顔で過ごせるようにこれからも学び合い、働きかけ、寄り添って歩みたいと思います。

（土谷 晴美）

鎌人いち場　フラワーセンターにて

わくわくおやつクラブ

米の新ヶ谷
産地優良農家より仕入
米 当店にて精米
氷 純氷です
腰越 3-24-23
☎0467-32-0713

ゆっこらっこの思い

特定非営利活動法人 輝き・遊っ子楽っ子

ＮＰＯ法人輝き・遊っ子楽っ子は２００４年５月に閉所した民設民営の学童保育「いるか学童クラブ」の指導員が中心となって立ち上げた特定非営利活動法人です。

いるか学童での経験から「子どもは地域で寄り添い守り育てるべき」と感じ、地域での子どもたちの居場所づくりを目指して活動を始めました。

子育て支援活動を開始して15年。現在は、子ども会館でのお話し会や、乳幼児や小学生向けのイベントの開催などの活動をしています。

市民協働事業として深沢子ども会館の運営をしていた２０１１年３月11日。お昼時に空一面のひつじ雲…　東日本大震災。

震源地からは何百キロも離れているとはいえ、未曾有の揺れに、子ども達を帰宅させて会館は閉館。後日、来館した子ども達が、「両親が帰ってこなかったから一人だった。」「電気がつかなかったからこわかった。」「お母さんが帰ってこなかったから兄弟だけだった。」「ごはん食べられなかった。」と、地震後の様子を話してくれました。

子ども達の話を聞きながら、子ども達への支援活動団体であるのに、非常時に何もしてあげられなかった無力感だけが心に重くのしかかったことを今でも思い出します。

この出来事によって、「子どもは地域で寄り添い守り育てるべき」というゆっこらっこの思いをどういう形で実現させようかと改めて考えさせられました。そして今でも探し続けています。

団体の思いを理解し応援してくださる鎌倉市市民活動センターは心強い存在です。これからも、「和をつなぐ、輪をひろげる」べく、更なるご発展を期待致します。

（相良祐子）

お話し会（上）と乳幼児歯科講座（下）の様子

触れあい・学びあいで子どもたちに将来の夢を

ＮＰＯ法人 子ども大学かまくら

〈毎年の学長の授業では学生との対話が〉

２０１２年度の開学以来、毎年、養老孟司学長に講演をいただいてきた。「勉強ってなぁに？」「考える力ってなぁに？」「なぜ昆虫に興味を持ったのか？」「人の体の不思議」「養老孟司の世界」「ヨーロッパのお墓の不思議」。〝学生〟（小学４～６年生）は、対話型の講演によって、ぐいぐいと惹き込まれてゆく。その後の学生の質疑からは、いつも昆虫好きの学長の顔が見えてくる。

〈多様な講師と学生の夢との接点を〉

この６年間に大学教授や専門家に担当いただいた31の授業では、学びの３本柱との関わりで「はてな学14、生き方学11、ふるさと学９」（重複該当も）の授業を、また、学術分野との関わりで「文系16、理系８」（非該当を除く）の授業を行ってきた。学生たちの将来の多様な夢への学びを意識したもので、講演後の質問では、つぎつぎと手が上がり、時間目いっぱいということが多い。

〈社会的協働と学生相互の学びあいを求めて〉

学生たちが実社会や産業、文化と触れ合いながら深い学びが行える機会を「体験学習」「ゼミ学習」として２０１４年度から提供してきた。市内や周辺地域の公的施設、教育機関、企業そして様々なＮＰＯ／団体等との連携・協働で企画・実施するとともに、学生がグループやチームとして相互に主体的に学びあう仕組みを積極的に取り入れてきた。こうした連携・協働の橋渡しは鎌倉市市民活動センターに負うところが大であり、謝意を表したい。

（中村 和男）

養老孟司学長の授業は対話型で（左）。ゼミ学習では学びあいでロボット・プログラミングを（右）

学生記者体験！

古都鎌倉、町の美しさを守り続ける

鎌倉を美しくする会

「鎌倉を美しくする会」は、長い歴史を持つ会です。代表の高田さんは、ゴミ拾いや落書き消しをみずから行うだけでなく、行政や企業に働きかけるということもなさっています。その結果、行政も一体となって鎌倉を真にボランティア文化の根付く地域にすることに、中心的な役割を果たしてきました。今回はその高田さんに、一時間余りお話を伺いました。

高田さんによれば、以前はこの鎌倉も古都の名に恥じてしまうような放置ゴミや、落書き、フェンスへの不正なポスターなどが氾濫していたそうです。高田さんはこれを憂慮し、有志を集めて「鎌倉を美しくする会」を立ち上げました。そして鎌倉の景観を改善することに奔走されたのですが、それには多くの労苦があったとのこと。ある日、不正にとりつけられたポスターを撤去し回っていたところ、設置者に見つかって追いかけられたという話は大変興味深いものでした。

「ゴミを出させない」ことに着目した高田さんたちメンバーは、「不要なゴミ箱」に目を向けました。収集回数の少ない設置ゴミ箱は、ただゴミを引きよせるものになってしまいます。そこで、行政に過剰なゴミ箱を撤去するよう働きかけました。これにより放置ゴミは大幅に減少しました。道端にある電力ボックスもまた、ゴミを呼ぶものでした。上部が平たく、ゴミを置きやすいと気づいた高田さんたちは、東電に進言し、ゴミが置けない尖った型に改善しました。ゴミを少しでも減らすという志を持ち、ゴミの発生につながるものは改善していかなければならないと、高田さんはおっしゃっています。

高田さんたちは、落書き対策としても、みずから消しに回るだけでなく行政に条例を請願しました。こうしてつねに鎌倉の景観がよくなるように先頭に立って走り続け、それが現在の鎌倉の美しさにつながっています。

高田さんは私たち取材班に、資料も交えながら詳しく語ってくださいました。鎌倉の美化に一生懸命活動する高田さんの真摯な姿勢からは、鎌倉への愛情が感じられました。高田さんは違法ベンチを撤去する一方で、協賛者からの資金でベンチを設置しています。そうして設置された安全なベンチにお年寄りが腰掛けているのを見る。そういう時が一番やりがいを感じるのだと、高田さんはおっしゃいました。

（鎌倉学園中学校　三浦徹也）

手打そば　鎌倉宮前
鎌倉宮の門前
手打ち蕎麦が最高
11：00～16：00
水曜定休

二階堂 93－14
0467-38 -5588

かまくら環境会議とは　かまくら環境会議

「かまくら環境会議」は、「環境自治体」を目指していた当時の市長の呼びかけに応えて、市内で活動している環境団体が集まり、１９９４年に発足しました。

鎌倉には海に流れ込んでいる川は７つあります。そのうち主に扇川、神戸川、関谷川の３河川で生き物や水質の環境調査を行っています。

扇川の活動では当初、地元の人たちから特異な目で見られたり、大雨で川が氾濫した時など、「生きものと人間とどっちが大切か」などと言われることもありました。今、その扇川ではホタルが見られるようになりました。関谷川では水質の改善が著しく、地元の関谷小学校では環境教室の実施が毎年恒例になっており、これまでに13回行われています。子どもたちが身近な自然に興味をもつことは嬉しいことです。鎌倉の川の中で一番汚れているといわれてきた神戸川が、地元の人たちの清掃活動の成果で水質がどんどん良くなっています。

そのほかに年２回、腰越から稲村ヶ崎にかけての海岸で、水質の変化や海岸の状態を観察したり、植物の変化を見守っています。以前に比べて海岸が狭くなったり、草花の群落がなくなったりしているとガッカリさせられます。

課題もあります。発足当時のメンバーで運営されています。一緒に活動しませんか。

（松本 陽子）

水質テスト（上）と扇川で行われた調査の様子（下）

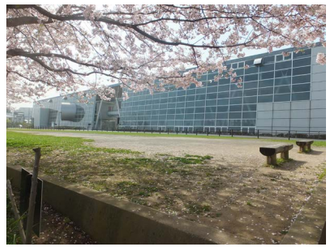
みんなで考える身近なリサイクル　特定非営利活動法人 鎌倉リサイクル推進会議

手広交差点の近くの柏尾川ぞい、町はずれの準工業地帯のこの地に、リサイクルセンター建設の話が持ち上がり、住民の方々や各団体の方も意見を出し合い知恵を絞り合って、できたのが笛田リサイクルセンターです。

ガラス張りの建物に向かって右側にあるのがリサイクル啓発棟です。ここで私達は、「リサイクルマーケット」や「生活の知恵教室」など３Ｒ(Reduce.Reuse.Recycle) に向けての活動を実施し、２０１７年に20周年を迎えました。教室の内容は、生ごみ減量・修理修繕・リサイクル手芸・衣類リフォーム・衣類お直し・裂き織り・つるし飾り・パッチワーク・リサイクル工作等々です。また、館内ではリメイク作品や「資源ごみのリサイクルパネル」の展示、「生ごみ処理機」の稼働展示をしています。見学会や学習会も企画しています。「夏休みの催し」では、紙すき・工作・石けん作り・裂き織りもあります。出来上がった時の皆さんの嬉しそうな顔は、私達にとっても大きな喜びになります。

鎌倉市のリサイクル率は、現在、全国で３位です。鎌倉市民は、資源のリサイクルに対しとても協力的で熱心です。学校でも授業で取り組んでいます。これからも皆さんと一緒に楽しみながら３Ｒの輪を回していきたいと思います。リサイクルセンター見学は自由ですのでお気軽にお越しください。ご来館をお待ちしています。

（小原 裕光）



笛田リサイクルセンター

リサイクルマーケット

海の汚染とごみ拾い　常盤道普請の会

常盤市役所通りを鎌倉市から「養子」として預かり美化活動を行う、アダプト・プログラム常盤道普請の会は発足12年目の団体であり、毎月第一日曜日の定例活動を平成18年11月にスタートした。地元常盤町内会や沿線事業者との連携も実現し、ごみは確実に減り風光明媚な地域づくりも進む。枯葉の清掃や除草作業を中心に、会員の顔ぶれは変わりながらも毎回15人ほどで美化のボランティアを続けている。

地域の景観を維持する小さな美化活動だが地球環境とつながっている。世界中で日々新たな環境問題が生まれ対策が論じられるが、今問題となっているのが海のマイクロプラスチック汚染だ。マイクロプラスチックに起因する生き物たちや人間への有害物質の害が研究されている。世話人としてこころがけている日常のごみ拾いだが、拾われず川や側溝に落ちたレジ袋やペットボトルなどのプラスチックごみが大雨に運ばれ、柏尾川を経て相模湾に流れ出ているだろう。

今日本で脱プラスチック社会をつくることは容易ではない。ごみを捨てる不心得者の行為に腹を立て、意識改革を待っていても埒が明かない。だから浜辺でも、道路や歩道でも、マイクロプラスチックになる前にすべてのごみを拾いたい。

（山村みや子）

バリ島のプラスチックごみ汚染

プラスチックごみの惨状を伝えるテレビ（上）史跡北条氏常盤亭跡のある常盤道（下）

夢生記者体験！

鎌倉の海と山を未来へ　ＮＰＯ法人 游風（ゆうふう）

「海で遊び、山をかけ抜ける風、そんな素晴らしい鎌倉の良さを後世にも残したい」。ＮＰＯ法人『游風』はそんな思いから発足したのだと、事務局長の竹林昌代さんは語ってくれました。『游風』さんでは、日本の森だけでなく自然環境全体の現状に目を向け、人と自然が共生していくための活動を続けています。「リユース食器」や「和器」などのレンタルによりゴミの削減をするだけでなく、イベントのコーディネートも行っています。

『游風』の「リユース食器」は、鎌人いち場や町内会のお祭りなどで使われています。リユース食器を利用することで、使い捨て食器に比べて、食器１個あたりのCO_2が80％も削減されます。地球にとても優しいリユース食器は、鎌倉以外の各市でも利用されています。

『游風』の「和器」も環境保護に着目した食器です。日本の森で育った杉の未利用材や間伐材を用いて作られた和器は、お祭りなどで利用されます。利用後回収された和器は、炭にして森林に戻します。炭は、森林の土壌を改良し、森を育てることができます。和器はこのようなサイクルを繰り返すことで、環境を保護しています。

『游風』はこのような「リユース食器」や「和器」の使用によって環境を改善するための事業に取り組んできました。今後は「森林でのワークショップ」など、人が自然とじかに向き合うことで、環境への意識を高める活動をしたいそうです。

『游風』さんの「人間が使うものを人間が育て、また森へ還す」活動。現代だけでなく次世代の幸せな暮らしにも繋がってほしいと願う竹林さんの眼差しは、どこまでも優しいものでした。

（鎌倉学園中学校　滑川 寛）

食器回収ブースでの活動（上）循環型の器「和器」（下）

みどりを感じたひとりひとり、みんなが鎌倉みどりのレンジャー！

特定非営利活動法人 鎌倉みどりのレンジャー

【シーン1】
「おじいちゃん、かぶとむしの幼虫を見つけたよ！」
「おとうさん、森の中の風って、気持ちいいわね―」
「車いす生活になっても森の中に気軽に来れて、気持ちがすっきりするよ！」
「これもすべて先代達が継続してくれた市民活動のお陰ですね！」
【シーン2】
「なーんか、鎌倉には何度も来たくなっちゃうんだよねー」
「鎌倉には今でも沢山の緑があって、街全体の空気が新鮮じゃないかと思うんだ」
「なるほど、それで体が癒され気持ちがすっきりしちゃって、癖になっちゃうんだね」
「昭和の鎌倉攻めにも耐えて、この素敵な緑の環境を守ってきたのは鎌倉市民らしいよ！」

こんなシーンに想いを馳せ、20年ほど前に設立された鎌倉市の「緑のレンジャー・シニア講座」終了生の有志による任意団体として、２０１５年に「ＮＰＯ法人鎌倉みどりのレンジャー」として再スタートしました。

鎌倉には緑の保全活動をしている団体が沢山あり、それぞれが目的をもって活動をしておりますが、まだまだやるべきことは山積みです。これらを解決するためには、団体の会員だけではなく、一般市民の力が不可欠です。

私たちは市内の公園や緑地の樹木整備など、既存の団体、自治会などの沢山の方々と一緒になって様々な活動に取り組んでおります。また、近年では史跡跡地の草刈りや、切り通しの巡回も始めました。

これからも幅広い緑化活動を進めるため、無理なく、楽しく、安全に作業を行うボランティア精神を堅持した開かれた組織を目指し、緑のボランティア活動を志す方々に門戸を開き、緑の保全・創造と質の高い快適な環境づくりを進めてまいります。

（山内 政敏）

鎌倉みどりのレンジャー　ジュニアとの合同活動（源氏山）

鎌倉みどりのレンジャー　シニア受講生との合同活動（源氏山）

メディカルゆう
福祉・介護の〝メディカルゆう〟
■メディカルゆう居宅介護支援
■メディカルゆう訪問 ﾏｯｻｰｼﾞ
NPO 法人ゆう東洋医学研究所
鎌倉市手広 4-7-5
☎0467-33-5668

行政・市民と共に谷戸を守る

特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会

鎌倉中央公園内にある山崎の谷戸は、古くから山崎の人の生活の場として利用され、近年まで昔ながらの暮らしが引き継がれてきました。田畑のある谷戸環境は、さまざまな生きものが棲み、日本の原風景といえる場所です。私たちはこの地を後世に残そうと活動をしてきました。

（公財）鎌倉市公園協会の運営する鎌倉中央公園において、２００４年の全面開園から行政と協働運営で保全活動を続けています。活動は７つの班（田んぼ、畑、雑木林管理、農芸、生態系保全、植物育成、自然遊び）に分かれて行われており、初めての方も気軽に参加できるプログラム、谷戸塾を通年で開催しています。

地元の伝統行事や、近隣の町内会の協力も得ながらの「谷戸まつり」なども開催し、保全作業以外にも地域に根付いた活動を展開しています。また、環境教育の場としての活動にも力を入れており、毎年たくさんの近隣の小中学生が作業に参加しています。

赤ちゃんから高齢者まで、幅広い世代の人たちが集い、市外からの参加者も増えています。たくさんの人、団体とつながり、谷戸が守られていくことを願っています。

（黒川 美加）

小学生の 体験学習

田畑での活動

ゆたかな緑と歴史資産を次の世代に贈りたい

鎌倉常盤山の会

「武家の古都・鎌倉」を謳った鎌倉市の世界遺産への挑戦は、不記載という評価に終わりました。理由は、歴史の物証が殆どないことと、あっても都市化されたゾーンとの間に緩衝地帯がないことでした。しかし、私たちの活動の場である北条氏常盤亭跡周辺の一帯には、源氏の血脈が絶えた後１３０年に亘って幕府体制を維持した北条氏一族の営みの跡が手つかずの状態で遺っています。

このため多くの市民や市民団体が、この一帯の歴史資産を保全し、緑と景観をまもる活動に携わっていて、その結果、市民が自然に親しみながら散策し、子どもたちが遊びながら歴史を学べる場ができつつあります。

「鎌倉常盤山の会」もそのような個人・団体と同じ理念を持つ団体ですが、特に以下の活動に力を入れています。

◇地権者であると同時に法の番人でもある神奈川県や鎌倉市と密接に連携
◇植生維持の障害となっている竹林の整備と侵食図の作成
◇鎌倉時代の姿を保全する区域と、市民が散策し子どもが遊ぶ区域のゾーン分け
◇それらゾーンの中、およびゾーンとゾーン、そしてゾーンと外界をつなぐ散策路の整備
◇複数団体が協働で行う活動をサポートするための資金集め

将来は常盤山で活動する全ての団体が集結する仕組みをつくりたいと考えています。

（鈴木 昭正）

山桜を覆う孟宗竹駆除（上）峯山の会と一緒に市職員研修を受け入れ（下）

鎌倉広町の森市民の会の活動経緯と今後の活動方針

特定非営利活動法人 鎌倉広町の森市民の会

「鎌倉広町の森市民の会」は15年前の２００３年に市民協議会として活動を始めました。当時は鎌倉市の南西部に残された「広町緑地（約48ヘクタール）」を鎌倉市が幾多の議論の末、都市林公園として保全を図るため土地を取得し、私たち市民の会と協働で保全、維持活動を行ってまいりました。

会の運営は、会員である一般市民（約８００名）によって支えられ、田んぼ、畑、森、散策路、自然観察、「かまくら緑の探偵団」などの活動と各グループによる市民とともに広町緑地を楽しむイベントや広町緑地を舞台とした、子どもたちの環境教育事業を行っています。

また、２０１６年より鎌倉市公園協会と共同で「鎌倉広町パートナーズ共同事業体」を結成して指定管理者として広町緑地の管理運営に深く参画しています。

宅地開発の波から守られた貴重な自然を維持するとともに、都市林公園ならではの、創造的な活用方法を市民自ら生み出し、新しい環境保全のあり方を発信するため、従来の活動と指定管理者としての活動を連携し、地域の皆様と共に活動していきます。

（平岩 由夫）

植木祭（上）と田植え祭（下）

ボランティアが育む都市のオアシス

特定非営利活動法人 鎌倉広町の森市民の会

学生記者体験！

鎌倉高校からほど近い住宅地を歩いていくと、住宅地に沿うようにして谷戸の風景が広がってきます。広町緑地は、街中にありながら、ホタルが舞い、ドジョウが住み、４００種類の植物と１５０種類の動物が息づく場所です。「ＮＰＯ法人鎌倉広町の森市民の会」は、この広さ約48ヘクタールもの森と耕作放棄地を、都市公園として育て、保全維持活動を行ってきました。

広町緑地は、約40年前には住宅開発の対象地域となっていました。しかし、近隣住民を中心とした市民の反対運動が鎌倉市を動かし、市は都市林として保全するため、２００２年に緑地を買い取りました。その後は、市民の会を中心とした市民ボランティアによって田んぼや畑が復元され、里山の景観を再生して現在の姿になっています。市民ボランティアは７００人を超え、「田植え祭」のイベントでは約３００人もの人が自然とのふれあいを楽しんでいます。田植え祭で作ったお米は他の施設などに提供されたり、参加者におにぎりとしてふるまわれています。

お話を伺った副理事長の望月高明さんは、以前は教員だったそうですが、生物が専門でないとおっしゃるのが意外なほど、動植物の知識が豊富でした。望月さんは、イベントや案内を通じて大好きな里山と親しむうちに、動植物に詳しくなったとのこと。そして、今でも新しい発見がたくさんあるのだと一生懸命に話してくれました。ハンゲショウなどの植物の特徴や、保全の大切さを丁寧に説明してくださる望月さんからは、この森への強い思いが伝わってきました。

多様な動植物が生息する住宅街のオアシス「鎌倉広町緑地」。都市の森として、市民の憩いの場所であり、豊かな生態系が保たれた、緑あふれる場所でした。取材当日も、ザリガニ釣りを楽しむ家族連れのたくさんの笑顔がありました。望月さんたち市民に愛されるこの森は、これからも大切に守り続けられていくのだと思います。（鎌倉学園中学校　藤田 赳寧）

北鎌倉の恵み復活とカマクラキコリス誕生

北鎌倉湧水ネットワーク

「北鎌倉湧水ネットワーク」は自然環境・景観保全、街の活性化を目的に２０００年に設立され、横浜ビールと「協働」で、六国見山の湧水を使った地ビール「北鎌倉の恵み」を誕生させた。当団体が湧水の確保と販売に協力し、横浜ビールが製造・販売を担当、売上の一部を鎌倉市市民活動センターに寄付するというスキームだ。寄付額の合計は10年間で１００万円を超えた。

２０１３年から「協働」の相手はサンクトガーレンに代わったが、スキームは継承され、寄付の合計額は40万円に迫っている。寄付先の1つにＮＰＯ支援かまくらファンドがある。復活を願う「北鎌倉の恵み」ファンがサンクトガーレンを紹介してくれた。

湧水ネットワークは、小さくて、機動力のある組織を基本とし、独自性、独立性を保ちながら、志の共有が可能な個人・組織と相互に得意技を提供しあって、それぞれの目的を達成する「分散型市民運動」という新しい考え方を提案し、実践している。

団塊世代の地域デビュー支援も積極的に行ってきた。２００４年に建長寺で「第1回団塊サミット」、10年後の２０１４年には「団塊サミットスペシャル in 建長寺」を開催した。

２０１１年からは六国見山の里山再生活動を始めた。朽ち果てる運命にある間伐材の有効活用に知恵をしぼっている。

２０１７年にクリエーターたちの協力を得て「ラムガ」と協働で間伐したヒノキの器「カマクラキコリス」を誕生させた。「カマクラキコリス」は、「地産地消」を売り物にしている鎌倉市内の複数のお店で好評を博している。

（野口 稔）

「北鎌倉の恵み」を美味しそうに飲む湧水提供者の若林伝吉さん（故人）（上）ヒノキの器「カマクラキコリス」のワークショップ（龍隠庵にて）（下）

緑を愛でる心を持ちながら

07みどりの会

私たちの「07みどりの会」も発足以来10年が過ぎました。鎌倉市の「緑の学校」での勉強後、年毎に会が生まれ、「緑の保護・育成と共に、自然の豊かさを大切に」を目的に活動しています。月1回の例会も、市や県有地の多くの「緑地」を訪れ、人と植物の共生の重要性などを学んできました。

外材がたくさん輸入される今日、戦後すぐに植林された檜・杉林が間伐や枝打ち（不必要な枝を落とすこと）もされず真っ暗なまま放置されていたり、土が流され多くの根が裸になったままの森も各地で見てきました。かと思えば、身近な湘南平近辺で、珍しいモクレイシやカゴノキが見られたり、相模原の里山でカタクリの大群落に遭遇したり、千葉の鋸山ではバクチノキの綺麗さに驚いたりと、植物と欠かせない私たちの生活のありさまを本当に大事にしなければいけないことを絶えず知らされてきました。

鎌倉中央公園、常盤の森や広町の山、天園に続く鎌倉アルプスなど、まだまだ素晴らしい自然が鎌倉にはあります。

しかし、その緑は何も考えず放置していては、豊かな恵みを私たちに与えてはくれないでしょう。緑こそ生物が生きる根源なのですから。タンポポなど身近な植物を愛でる活動が広く届きますように、みどりを愛する仲間達とともに活動を続けていきたいと思います。

広町緑地を探索（上）都立小石川植物園散策（下）

TOTOMOも20周年！

図書館とともだち・鎌倉

図書館とともだち・鎌倉（以下TOTOMOと略）の発足は1998年です。奇しくもNPOセンターと同様に今年で満二十歳となりました。

TOTOMOは名前のとおり図書館友の会です。図書館と協力・連携して協働事業をはじめ様々な活動を行い、ときには耳の痛いことも物申してきました。協力関係を保ちつつ言うべきことは言う、そのバランスには留意しています。

主な活動歴を紹介すると、まず発足してから5年後に、図書館を含む生涯学習部を教育委員会から首長部局に移管するという動きがありましたが、図書館の独立性・中立性への危機と捉え学習会や署名活動を行い、結果として移管を回避することができました。

2011年の図書館創立100周年を記念する事業に参画し、『鎌倉図書館百年史』の編集・分担執筆やイベントの企画・実施を行いました。また同時期に、貴重かつ高額な資料購入のための図書館振興基金設立の条例化も実現させています。（基金による購入例として左下の写真参照）

最近では、1936（昭和11）年に建てられた旧鎌倉図書館の建物の保存活動に取り組み、それを実現させました。いったん議会で解体予算が成立したものを、保存へと方針転換させたことは画期的なことだと自負しています。さらに直近では、地域図書館を非常勤職員中心の運営体制にするという動きを食い止めることができました。

こうしてTOTOMOは取り組んだ課題に何らかの結果を出してきましたが、それは毎週例会を開いて綿密に活動プランを練り、メンバー間の相互理解を深め、隔月に会報を発行して情報発信し、〈賢く機敏かつ粘り強く〉という活動スタイルを貫いてきたことと、NPOセンターが毎週の例会開催、会報の印刷、そして他団体とつながる場としてTOTOMOの活動を支えてくださった故と考えています。

（和田 安弘）

国際観光都市 鎌倉観光鳥瞰図

夢多きシニアたちの活動の広場（鎌倉三日会の会報発行にかかわって）

鎌倉三日会

読売新聞社を退職後、先輩に誘われて鎌倉三日会に入会してから十数年。最初は会の空気になじめず退会も考えていました。ところが紹介してくれた先輩にまた声をかけられ、引き継いだのが三日会会報の編集人としての仕事でした。実は先輩も新聞社、出版社での編集で経験を積み、三日会でも会報づくりを十年以上続けたベテランでした。「これならキャリアを生かし、老後の生活として打ち込める」と先輩にみならい、一念発起して取り組んで います。

鎌倉三日会は地方自治の進展を図り、鎌倉市政の充実及び市民生活の向上に寄与することを目的として、1951年に創立されました。会員相互の親睦を深め、その知見・経験の活発な交流を図るとともに必要に応じて企画、広報及びその他の調査研究などの役割分担を行います。会報の発行もその一環です。その他にも鎌倉市政への提言を目的に①子育て世代が住みやすいまちづくり②歴史まちづくり③鎌倉の交通問題④文化活動の充実という4つの分科会が活発に活動しています。

私も歴史まちづくり分科会で鎌倉の文化財行政を見守っています。会員の生き方、考え方を取り入れた活動の舞台が設定されており、のんびりとしてはおられません。新たにホームページの充実を図り、会報でも「分科会報告」などで活動報告を行っています。ぜひ鎌倉三日会の活動をご理解いただき、世代のへだたりを乗り越えてともに〝鎌倉の魅力〟を語り合い、市民、観光客、外国人など誰からも愛されるまちづくりを進めていきたいものです。

（高木 規矩郎）

古事記朗誦の実践活動を続ける大小田さくら子さんをゲストに招いて開かれた鎌倉三日会新年会の光景

市民と共に歩む「鎌人（かまんど）いち場」

鎌人いち場実行委員会

［鎌人いち場の誕生］

2009年7月12日、鎌倉市市民活動センター10周年記念事業として「鎌人いち場」は産声を上げました。

こんな街に住みたい、住んでよかった、人と人がつながりひろがっていく、人に優しい街をつくりたい。そんな思いで現代版「市」をイメージしたコミュニティマーケットを、市民活動で活躍する人たち、さらに鎌倉在住のさまざまな人々によって、第一回鎌人いち場が開催されました。

［鎌人いち場の理念］

①そこに行ったらみんないる！つながるひろがる「コミュニティマーケット」であること。

②参加者主体の場であること。

③鎌倉を愛し地域に根ざした未来創りに貢献すること。

この理念のもと、実行委員会と出店者が一体となって鎌人いち場を創り出してきました。特に市民活動を広く一般の人々に知ってもらうための「知る場」ブースを中心にワークショップ、ジャムプラザ、フリーマーケット、物販、飲食など幅広く出展者を募ることにより、鎌倉の春・秋の風物詩として定着させることに成功しました。また開催を通してゴミゼロ運動を推奨、リユース食器の導入など地球環境に配慮した活動を展開することにより、多くの市民の共感を得ることもできました。

［鎌人いち場のこれから］

鎌人いち場は平成30年10月に第19回の開催を迎えました。発足当初100年続くイベントへと高い志を掲げ、毎回工夫を凝らしてきました。鎌人いち場の理念と平和を愛する心を失わず、今後とも鎌倉市民と共に歩むコミュニティマーケットとして、末永く存続することを願って頑張ってまいります。

鎌人いち場のシンボルになっている横断幕

学生記者体験！

冬の北鎌倉を彩る つるし飾り

北鎌倉つるし飾り委員会

2011年の試作展から始まった、北鎌倉のつるし飾りも2018年で8年目を迎えました。2月から3月末に、つるし飾りを北鎌倉の町中に飾り、賑やかにしてくださっているのが北鎌倉つるし飾り委員会の皆さんです。代表の齋藤博子さんと川上靖治さんからお話を聴くことができました。冬の寒い時期に観光客の出足が鈍るので、町の活性化のためにつるし飾りというアイディアが出され、2・5キロの街道やその周辺の店先やお寺に様々な飾りが吊されています。新聞やテレビでも紹介されるようになり、この飾りを見るために北鎌倉にいらっしゃる方も増えてきたとのこと。この活動を始めた当初は参加店も僅かだったものの、今では100以上のお店が参加し、我が校も今年から参加しました。参加した生徒は「私たちの作った飾りを見た方が可愛いねと言って写真を撮っている様子を見たときはさすがに嬉しかった」と語っていました。

北鎌倉つるし飾り委員会が、つるし飾り作家の作品を貸し出すのが基本ですが、最近ではそれぞれが独自のつるし飾りを作るお店も増えてきて、半数近くがお店の特徴を表した飾りを吊しているそうです。

また期間中に北鎌倉駅周辺のガイドマップを配布しており、つるし飾りの飾ってあるお店の特徴も記載されているのでとても好評だったそうです。「北鎌倉の街道物語」という鎌倉～室町時代の服装をした人物のつるし飾りもあり、誰でも作れるように組立キットとして販売もし、こちらも好評だったそうです。

最後に代表の齋藤さんは「つるし飾りを通じて、北鎌倉に観光で訪れる人も住む人も、誰もが笑顔になってくれればと思って、これからも続けていきます」と語って下さいました。

（北鎌倉女子学園高等学校　山浦実咲）

北鎌倉駅前広場の臨時観光案内所

2世紀目の鎌倉同人会

一般社団法人 鎌倉同人会

一般社団法人鎌倉同人会は、大正4（1915）年に設立された、鎌倉で最も古く由緒ある社会貢献団体です。明治の元勲・陸奥宗光を父にもち外交官として活躍した陸奥廣吉伯爵、洋画壇の大御所の黒田清輝、上野駅初代駅長で後に外交官となった荒川巳次、日銀役員だった池田豊作、神奈川県知事だった大島久満次ら日本を代表する鎌倉在住の人々が発起人となって設立されました。

当時、鎌倉は、海水浴に最適な海に面し、三方を緑深い山に囲まれた風光明媚な土地で、気候も温暖、しかも歴史的遺産が数多くありながら、それらを活かした町づくりがまだまだ不十分でした。そこで鎌倉をさらに住みよい環境の町にし、観光地としても内外にもっとアピールすべきと考えて、同じ志をもつ人々に呼びかけてきました。創立当初から昭和にかけて、鎌倉駅舎の改築、若宮大路の松並木の保護、段葛の植樹、街灯・公衆便所の設置、寺社・史蹟等の保存補修・建碑、郵便局舎の建設、鎌倉国宝館の建設、また関東大震災の時には救護薬品の寄贈や復興の支援を行うなど、当時、行政が手を付けられなかった事業も積極的に行ってきました。こうした活動により、今日の鎌倉の基礎を作りあげる上で多大の貢献をしてきました。

現在も鎌倉同人会は、創立者たちの使命感を受け継いで、実朝忌俳句大会、栄西禅師まつり、鎌倉歌壇さきがけ源実朝公顕彰歌会、文化講座、歴史講座、映画会、石碑の建立・保全、鎌倉桜の植樹など、鎌倉の文化の発展向上のため着実な努力を重ねています。平成27（2015）年1月に設立100周年を迎え、これを機に、創立者たちの鎌倉の町づくりの足跡とともに鎌倉の文化を再発見し、ひろく発信していく活動を今後も続けてまいります。

（齋藤 俊英）

鎌倉同人会歌会

鎌倉市民の安全安心を願って

鎌倉ガーディアンズ

鎌倉ガーディアンズは、平成21年7月鎌倉花火大会の警備をボランティアで助けて貰えないか？という行政からの依頼を契機に結成しました。翌年にはオバマ大統領の鎌倉大仏様訪問時の警備の一端を担い、民間ボランティア団体初の県警本部長感謝状を授与され、現在ではメンバー120名を擁する県内最大規模の防犯組織です。

主な活動は、多数の観光客が訪れる市内のイベントや寺社祭事や自治町内会のまつりなどの防犯・誘導活動です。

また、東日本大震災に際して、震災3ケ月後に現地訪問ツアーを主催し、現地の惨状を目に焼き付けたことを契機に、防災活動にも積極的に取り組んでいます。震災から5年目に市民募集した「震災遺構ツアー」の実施や、平成29年には大西熊本市長をお招きして「熊本地震から学ぶ、鎌倉の防災」の講演会（写真）の開催など、常に防災に対する決意を新たにしております。

そして、2020東京オリンピック・パラリンピックを支えるボランティアの整備を進める政府（内閣官房）から、警備マニュアル提出の依頼を受けたことを契機に、発足から9年の活動ノウハウを纏めた警備マニュアルを作成しました。来るべき2020東京オリンピック・パラリンピックを見据え、車いすユーザーの介助方法、海外からの観光客への接し方なども盛り込みました。

市民の皆様！ぜひ、鎌倉ガーディアンズに参加してみませんか？ご入会大歓迎です！

（大津 定博）

鎌倉まつりの流鏑馬警備

大西熊本市長の防災講演会を開催

若宮大路の松並木補植

鎌倉市政を考える市民の会

「駅前から八幡宮にかけては観光客で賑わっており、反対の下馬までは地元の人の生活圏になっていてとても活気がある。それが一の鳥居から海岸までとなると途端にひっそりして、荒れた感じもあるよね」「鎌倉市政を考える市民の会」の「まちづくり部会」でこんな話が出て、改めて現地を歩いてみると、成る程空き地は多いし使われていない建物もいくつかあり、松並木は虫にやられたのか随分歯抜けになっている。植栽にいたっては草が生え放題、すぐ前が由比ガ浜と材木座で、三方の山や寺社と並ぶ鎌倉の看板エリアであるのに殺風景なことこの上ない。「松並木の補植をしようではないか」そんな提案があって「若宮大路の松並木再生プロジェクト」がスタートした。

若宮大路が県道であることは承知していた。だから鎌倉市は何も出来ないということも分かった。それでは県に陳情するしかない。そこまでの理解は早かったが県の壁は厚かった。曰く「本当に松でいいのか、関係方面の了解は取れているのか。地元は納得しているのか、薬剤散布をすることもあるぞ。県としてはそこに予算を付ける余裕はない」など。言われるままに関係方面に意見を聞いて回り、幾度も陳情した熱意が通じたのか、二本だけ植えようということになったのが十年前のこと。それ以来、毎年二、三本の小さな苗木を補植した。県の予算の都合で少しずつ植えたのだが、私達も長い時間をかけたほうが地元の皆さんに認識を深めてもらえるだろう、と考えていたのでむしろ好都合だった。

今やはじめに植えた松は私たちの背丈をはるかに越え、地元の若宮町内会とのコラボで除草作業が定期的に行われると共に、県も松の剪定や植込みの手入れなど積極的に関与してくれるようになり、落ち着いた、ある意味では最も「若宮大路」の名にふさわしい通りになったのではないかと自負している。

（松山 淑郎）

若宮大路の松並木

今泉台町内会とNPO連携

今泉台町内会

今泉台町内会は人口約5000人（2000世帯）、住宅地として開発されて50数年、高齢化率46％、アンケートの結果では住民の90％近くが住み続けることを望んでいます。

今日、今泉台町内会はNPO法人タウンサポート鎌倉今泉台（平成27年7月発足、以下NPO―TSKI）、と協働で各種の事業を継続展開しています。

①「継続居住研究会」では横浜国立大学建築計画研究室の協力のもと、空き家調査とその有効利用の検討を行っています。このグループでは空き家を利用した介護福祉システム導入の可能性を探り、町民を対象としたワークショップ『自分たちで考える老後の暮らし方（今泉台に住み続けるために）』や近隣介護事業者との懇談会を開催、最近行った「みらいセミナー」では要介護の状態になっても最後まで自宅に住み続けられる空き家の活用に加え、空き部屋の活用として高齢者宅に学生を住まわせるホームシェアが提唱されました。実現すれば、独居老人が若者と暮らすことで寂しさや不安の解消につながることが期待されます。

②「鎌倉リビングラボ」は東京大学高齢社会総合研究機構と鎌倉市の要請を受けその実施地域として今泉台町内会が取り組むことになったものでそのサイト運営はNPO―TSKIが担っています。開始1年、複数のプロジェクトが実施されています。成果が得られるのはまだまだ先のことと思いますが、産学官民連携の取り組みが多方面から注目されています。

平成30年4月25日にはスウェーデン国王及び王妃が町内会館を訪問、併せて、今泉台の商店街にある「ワーキングデイわかば」（地域密着型通所介護施設）を訪問されました。今泉台における鎌倉リビングラボ実施状況を視察されたことは特筆に値する出来事でした。

③NPO―TSKIとの連携は他にも、文化祭（5月開催）、緑の保全活動、健康ウオーク活動の推進など各種多岐にわたっています。

（尾島 隆史）

もし、小さな町で ギネス世界記録に挑戦するとしたら

七里ガ浜自治会

七里ガ浜自治会の夏祭り40周年記念。この町もいつの間にか、長い年月が経ちました。ここには古くから居住しているお年寄りもたくさんいます。新しく移り住んだ若い家族もいます。でもそこには、「知らんぷり」という大きな溝もあるのです。自治会はそんな溝を無くしたい。道ですれ違えば挨拶の飛び交う町にしたい。

「おはようございます」「こんにちは」挨拶の声が聞こえる町にしたい。小さな町だから、どこかでみんなが繋がる事業をやれたら楽しいだろうと。そんな思いで「1600世帯だから1600人の絆をつくろう!」ギネスに挑戦という夢のような事業に発展していきました。

ギネスの競技は「50メートルリレーを8時間走った最多人数」町中の1600人でリレーをすることに決まりました。

案の定、難題だらけの毎日。「ギネスワールドレコーズ」から渡されたガイドラインは日本陸連の正式ルールと競技内容が厳しく、出入り口およびトラック全体のビデオ保存による走者のカウント方法。公正に審判を行うための部外スタッフの配置。そして何よりも先立つものが無い!

高額な予算、厳粛なルール、競技場所の確保、スタッフの確保、天候の不安、事前に募った1600名の走者名簿も穴だらけ。リスクは高く、問題は深い、世界記録挑戦というのは、本当に困難なことだと改めて知りました。

まず、資金集めは自治会の予算と有志による寄付金、足りないお金は知恵を出し合って、関連商品を町中に売ってまかない、競技会場も二転三転しながら商店会の協力で解決し、厳しいルールのため、何度もギネスに足を運び、修正を繰り返しました。事前承認が下りたのは実施二日前。最初は数人程度で動いていましたが、本番に近づくにつれ、多くの仲間が助けてくれるようになり、反対していた人達も声をかけてくれ、積極的に手伝ってくれるようになりました。

2017年の夏は長雨で天気が心配されましたが、当日の天気は晴天!真夏の太陽が照りつける中、午前10時、スーパーマーケット駐車場に作られた特設会場で挑戦を開始。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、子供達、赤ちゃん、身体の不自由な方、商店の方々、地元の運動部、関連地域の方々、遠方から来た人、時には歩きながら、時には転び、また、幼い子は何度も止まりながら、世代を越えてバトンを繋いでいきました。

午後6時、最終走者がゴールインすると会場は歓声と拍手に包まれ、1600人のリレーを成功させ、ギネス記録は厳正な審査のもと1485人、この小さな町で苦楽をわかちあい世界記録を達成した瞬間となりました。

（白石 徳宏）

皆でギネスに挑戦 8時間50メートルリレー

鎌倉・七里ガ浜で19日

鎌倉市の七里ガ浜自治会が19日、制限時間8時間で50メートルリレーをつないだ人数を競うギネス世界記録に挑む。七里ガ浜夏祭り40周年の記念イベントで、地域のつながりを深め、まちおこしを図るのが狙い。他地域の市民や観光客らにも参加を呼びかけている。

挑むのは1人50メートルを受け持ち、8時間以内に何人参加できたかを競うバトンリレーで、世界記録は2011年に大阪府豊中市の千里ニュータウンが達成した1357人。七里ガ浜自治会は約1600世帯あり、観光客らの参加も含めて新記録樹立を目指す。

当日エントリー可能

50メートルを走ることができれば誰でも参加でき、当日のエントリーも可能。広報担当の水野勝太さんは「50メートルを20秒ずつでリレーできれば、世界記録は十分可能」と参加を呼びかけている。

参加者には、大会マスコットの「ナナコ」とギネス世界記録マークの入りの特性うちわがプレゼントされる。

問い合わせは同自治会事務局（0467・31・5489）。【因幡健悦】

大会マスコット「ナナコ」を描いた特製ポスターを掲げ、市民らの参加を呼びかける七里ガ浜自治会のメンバー＝鎌倉市御成町で

毎日新聞 2017年8月15日朝刊

上州屋
Joshuya Stationery
オフィス家具
ＯＡ機器　事務用品
株式会社上州屋
ビジネスプランニング
0467-43-2511
http://www.joshuya.co.jp

勇気をくれる魔法の言葉

照る日、曇る日、人生いろいろ———。あなたはいま、山の何合目にいますか？。ここまで登ってきたけれど、思い切って次の一歩が踏み出せない、これから登り始めようか、どうしようかとためらっている———。そんな時に背中を押してくれる言葉を拾い集めてみました。私たちの日々の活動の、心強い同伴者になってくれることを願って。

●僕は失敗したことなんてない。ただ、１万回もの、上手くいかない方法を見つけただけさ。（エジソン）

●ベストを尽くして失敗したら、それはベストを尽くしたということだ。（S. ジョブス）

●小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただ一つの道だと思っています。（イチロー　米大リーグで新記録を樹立した時に）

●夢見ることができれば、あなたは成し遂げることができる。覚えておいてほしい。このすべては、一つの夢と一匹のネズミから始まったのだということを。（W. ディズニー）

●明日死ぬと思って生きろ。永遠に生きると思って学べ。（M. ガンジー）

●国があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何が出来るかを問おうではないか。（J.F. ケネディ）

●三月の風と四月の雨が、五月の花をもたらす。（英語圏のことわざ）

●径寸十枚是れ国宝に非ず　一隅を照らす是れ則ち国宝なり。（伝教大師＝最澄　金銀財宝なんかではなく、目立たずとも世の一隅を照らすような行ない（をする人間）にこそ、国宝とも言える価値があるのだ）

●僕の前に道はない　僕の後ろに道は出来る。（高村光太郎　詩集「道程」）

●たとえ明日地球が滅びるとしても、きょう君は林檎の木を植える。（伝・M. ルター）

● One for all, all for one.（一人はみんなのために、みんなは一つ目的のために。ラグビーチームで一体感の醸成に使われる）

「勇気をくれる魔法の言葉」入りうちわをプレゼント!

あなた自身が大切にしている言葉はなんですか？　書道家が墨書した特製うちわを50名様にプレゼントします。

募集要項

応募はハガキにその言葉（1～50字程度）、住所、氏名、電話番号、年齢を明記。２０１９年２月28日必着。お申込み多数の場合は抽選になります。

☆宛先　〒２４８－００１２　鎌倉市御成町18－10　鎌倉市ＮＰＯセンター『魔法のうちわ』係

道
あなたには、あなたの書。
みんなちがって、
みんないい。
鎌倉駅５分 若宮大路 段葛前
かまくら 段葛書道会
鎌倉市御成町１６-３　水谷峰延
☎０４６７-８４-９９０８
※お稽古日　第２・４木曜日午後

市民活動は〝脳〟に効く！

鎌倉市健康福祉部市民健康課　石黒　知美

鎌倉市市民活動センター設立20周年おめでとうございます。

日頃から、ＮＰＯセンターの皆さんには様々な場面で、市民の健康づくり事業にご協力いただき、ありがとうございます。

さて、皆さんの行っている活動は、地域の方々の役に立っているだけでなく、活動されている皆さん自身にも、大きなプラスになっていることに気づいていらっしゃいますか。

先日市内で行われた「フレイル（※）予防講演会」の中で、様々な活動とフレイルの関係を調べたところ、「運動や地域活動等を行っている人に比べて、何もしていない人のフレイルになるリスクは16・4倍。また、運動はしているけど地域活動等を行っていない人は、運動はしてないけど地域活動等を行っている人に比べて、フレイルになるリスクは高い」というお話がありました。

さらに、長生きに最も効果があるのは、運動や肥満予防ではなく、「人とのつながり」であり、「『孤独』は『肥満』より、健康に悪い」という、調査結果も披露されました。鎌倉市市民活動センターの活動のコンセプトである「和をつなぐ。輪をひろげる。」ことは、「人とつながること」です。そして「人とつながる」ためには、コミュニケーションが欠かせませんが、人とのコミュニケーションは、非常に脳を活性化させると言われています。それも、相手の表情やしぐさを見ながら話を聞き、的確な答えを返す―という対面でのコミュニケーションの方が、電話やＳＮＳよりも、脳の活動量が増えるそうです。脳の活動量が増えるということは、高齢者の方々にとっては、認知症予防にもつながるということ。これは、若い人達も含め、どの世代の人にとっても、嬉しいことです。

そして、〝脳〟を活性化するには、「楽しい」とか、「気持ちいい」という快感を感じることも大切で、その意味でも、気のあった仲間と地域で活動し、充実感が得られるＮＰＯ活動は、〝脳に効く〟と思います。

好きで、楽しく続けている活動が、知らないうちに、自身のフレイル予防や長生きにつながり、かつ脳も鍛えられている。これ以外にも、もっとあるのではないでしょうか。20周年を記念して、一度皆さんで、ＮＰＯ活動の効用を数えてみるのもおもしろいかもしれません。ＮＰＯ活動で、『一石二十鳥』かも！

最後になりますが、地域で元気に楽しく活動し続けるには、自分自身の健康も忘れないでください。今後ともどうぞよろしくお願いします。

※フレイルとは

加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態であるが、一方で適切な介入・支援により、生活機能の維持向上が可能な状態像とされており、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間を意味します。（厚生労働省研究班報告書より）

20周年に寄せて

鎌倉市共創計画部　比留間　彰

市民活動センター設立10周年記念誌に続き、今回また寄稿の機会をいただきました。ありがとうございます。

市民活動センター設立から20年、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。当時、使われ始めた「協働」という言葉も、今や広辞苑に掲載されるまでに認知度が高まりました。協働の主体や形態も大きく様変わりし、鎌倉の市民活動もこれに合わせて変貌を続けています。

このまちに暮らす私たちにとっても、市民活動は今や日常生活の一部と言えるほどに進化を遂げています。私自身の20年間を振り返ってみても、様々な場面で市民の方々に支えられ、叱咤激励を糧として成長させていただきました。まことに感謝に堪えません（あるいは、ただ年齢を重ねただけなのかも知れませんが…）。皆さまの活動にあらためて敬意を表します。

今、私たちはかつて経験したことのない人口減少、少子高齢社会を迎えています。前例がなく、正解のない不安な時代に突入しました。しかし、憂慮することはない、と私は考えています。鎌倉にはこれまで皆さまと培ってきたノウハウと相互信頼関係があり、この積み重ねこそが、困難な時代にあって都市経営の推進力となる大きな財産である、と固く信じているからです。

自治体まちづくりは、新たな時代を迎えています。鎌倉のまちづくりの最前線で活動されている皆さまとのさらなる連携を通して、今後とも持続可能な都市経営に邁進していく所存です。いっそうのご指導、ご支援をお願いいたします。

認定特定非営利活動法人
ＮＰＯサポートちがさき
益永　律子

鎌倉市市民活動センター設立20周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

市民が主役の社会の実現のために、特定非営利活動法人鎌倉市市民活動センター運営会議が果たしてこられました市民活動支援へのご尽力に深く敬意を表する次第です。

２０００年２月、茅ヶ崎市市民活動推進検討委員会として、市民活動先進都市の視察で鎌倉市市民活動センターにお伺いしました。発足したばかりの「市民活動センター」に様々な立場の市民がかかわって運営されていました。施設（ハード）を行政、運営（ソフト）は市民がパートナーとなり役割を果たす「公設市民運営」により、市民自身の自治を促す気概を感じました。その後、仲介型の基金「かまくらファンド」を創設されて、行政に頼らず、市民や企業などからの寄付を募り、広告やバザーなど様々な企画で原資を生みだしながら「市民が市民を支える」気概は脈々と継承されていることに感銘を覚えます。

公の施設は、住民の利用に供し、福祉の増進を目的とするものです。単なる箱ものでなく新しい価値が生まれる装置として市民活動センターが輝きを増すように、市民運営への期待は高まります。これからも、人が人をささえる豊かな地域社会の実現にむけて、ますますのご発展と、今後の皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

認定特定非営利活動法人
藤沢市民活動推進機構
手塚　明美

鎌倉市市民活動センターは、ＮＰＯ中間支援センターの草分けとして１９９８年５月に設置されました。「かながわゆめ国体」が開催された年で、私ども藤沢市民活動推進機構の前身団体は、「市民スポーツの支援」と銘打ち、今でいうところの「おもてなし」事

業を展開していました。私自身は、前職の関係で、鎌倉市役所に伺うこともあり、現在の市民活動センターが市役所駐車場の一角に建てられたことをよく覚えています。大変興味深く、アポなし訪問をさせていただきました。ちょうど藤沢市でも、ＮＰＯ法の成立を受け、市民活動支援が話題に上ることが多かったためです。

鎌倉市は、「鎌倉同人会（１９１５年結成）」、「鎌倉風致保存会（１９６４年結成）」に代表される、住民によるまちづくり組織が現存する革新的な地域です。１９７３年に定めた「市民憲章」にも、「～すすんで市政に参加し、住民自治を確立します。」とあります。そのような土壌の中、公募によって集まった市民活動団体の代表全員（35団体）によって構成された「鎌倉市市民活動支援検討委員会」が、鎌倉市で活動する市民活動団体のネットワーク組織として2年間の議論の末、「鎌倉市市民活動センター」は設立されました。運営主体は、行政から独立した「検討委員会」が「鎌倉市市民活動センター運営会議」となって、現在に至っています。藤沢市では、少し遅れて検討委員会が設置されましたが、鎌倉市の事例は大変先進的に思え、複数回に亘り施設見学をさせていただき、当時の運営会議の皆様にお知恵をお借りしていました。

鎌倉市市民活動センターが20周年を迎え、ＮＰＯ法の制定からも20年が経った今、ＮＰＯを取り巻く環境の変化を私たち中間支援組織は、市民に向けて伝えることができたのでしょうか。今までの20年をしっかりと振り返り、これからの20年の進むべき道を、革新的な歴史のある鎌倉から発信していってください。及ばずながらご協力できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

改めまして、設立20周年、誠におめでとうございます。引き続きのご活躍を心より祈念いたします。

鎌倉市市民生活部
熊澤　隆士

鎌倉市市民活動センター設立20周年、おめでとうございます。

私は、20年前、市職員として、市民活動センター設立に関わらせていただきました。熱い思いにあふれた市民の方々が、企画、立案、そして準備に主体的に関わり、「みんなで汗する」を合言葉に、「これまでやってみたことがなければ、みんなで力を合わせてやってみよう」と多くのことにチャレンジしました。

その結果、「ＮＰＯを支援するＮＰＯ」が誕生し、「公設市民運営」の市民活動センターが設立、新たな時代を開いた喜びを市民の皆さんと分かち合ったことは、今でも記憶から薄れることはありません。

時は流れ、20年が過ぎました。センターでは、毎日、多くの市民活動団体が活動しています。私が再びこの分野に関わらせていただき感じることは、市民活動に関わる、分野を超えた普遍的な課題解決を追求する場が未だ少なく、そのため市民活動そのものの環境整備や、市民協働の促進は、十分な成果に至っておりません。

市民活動の現場をよく知っているのは、実際に活動をしている市民の方々です。これからの市民活動は、こうした環境を整備していくための中間支援機能の充実にかかっており、市民活動センターは、その一翼を担える存在と信じています。

センターが今後も時代を切り開く存在であり続けることを期待しています。

おだわら市民交流センター
ＵＭＥＣＯ
椎野　典子

鎌倉市市民活動センター運営会議設立20周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。鎌倉市は深い歴史と文化を持ち、また豊かな自然の中でゆったりと息づいています。

年間多くの観光客が訪れ国際色豊かな趣のある街です。その鎌倉の地を愛する市民の方々の「鎌倉の地で、鎌倉の為に何かをしたい」という思いを地域の活性化につなげてこられました。今、世界の方々が鎌倉に行ってみたいという気持ちを持っています。それは先人から引きついだ鎌倉ならではのおもてなしや歴史と文化そして鎌倉市市民活動センター運営会議の皆さんが、この素晴らしい鎌倉の地で、市民の活動を支援して来られたのでここまで発展してきたのだと思います。

人生１００歳時代を迎え、心豊かに生きるためにはどうしたらよいのか。

今、この時代だからこそ市民活動の大切さが一層際立ってきました。おもてなしの心を持ち観光客をお迎えし、取り組むことにより鎌倉の街が更に輝くことが出来るよう心から願っております。

最後になりましたが、超高齢社会を迎えている中で、自らが学び行動を起こす市民活動を支援する鎌倉市市民活動センター運営会議のますますのご発展を祈念申し上げます。

特定非営利活動法人湘南ＮＰＯサポートセンター（ひらつか市民活動センター協働運営団体）
坂田　美保子

平成30年は、「特定非営利活動促進法」が施行されてちょうど20年の節目の年に当たります。この制度とともに歩まれた鎌倉市市民活動センターの皆さまの市民活動の発展と活性化に向けたお取り組みと、住みよいまちづくりを目指して活動してこられた市民活動団体の皆さまのたゆまぬ努力に、心から敬意を表したいと思います。

当時、鎌倉市市民活動センターは、「市民（民間）の手による市民活動センター運営」の先駆けとして、県内外から大きく注目を集めていました。鎌倉を見習い、鎌倉に追いつけと、私どもも様々な刺激と影響を受けながら少しずつ前に進んできたように思います。

特に鎌倉市市民活動センター運営会議が発行される、市民活動に関するさまざまな情報紙や発行物は、市民活動の現状や社会の変化・課題を一般市民にもわかりやすく丁寧に伝えておられ、毎号楽しみに拝見しています。編集者の市民活動やまちづくりへの思いと愛情がかたちとなって次世代へつながっていく、これが鎌倉らしさなのかなと改めて感銘を受けているところです。

時代は新しい社会に向かって大きく変わりつつあります。多種多様な地域課題解決のために、今後益々市民活動やＮＰＯが果たす役割が期待されることと思います。そのためにはわれわれ中間支援組織も横に縦にとネットワークを広げ、情報共有と連携・協力を強めていきたいものです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

鎌倉市市民生活部
地域のつながり課
原　拓也

この度は、鎌倉市市民活動センター設立から20周年を迎えられますことをお慶び申し上げます。

私は、平成25年4月に入庁し、昨年の10月に地域のつながり課に異動してきました。

異動の内示があった時、私の頭に浮かんだことは、中学生の時の友人たちとのボランティア活動でした。ボランティアの内容は、近隣の小学校での学童保育、地域の育児サークル、デイケア施設でのお手伝いなどです。これらの活動を通じて、普段の生活では関わることのできない様々な世代の方々とつながり、多くの貴重な経験を積むことができました。このボランティア体験が、市役所の仕事に興味をもったきっかけであったと思っています。

地域のつながりの希薄化が叫ばれるこの時代に、市民活動の魅力はここにあると思います。

鎌倉は日本初のナショナルトラスト運動の地であることを新採用職員研修で学びました。鎌倉には、先人たちから脈々と受け継がれる市民活動の土壌があります。

市民活動センターには、市民活動の後押しはもちろん、市民活動を通じて得られるかけがえのない新たなつながりへのコーディネートなど、時代のニーズを的確にとらえた取組みに期待します。私も、更に多くを学び、その一翼を担えるように頑張っていきます。

第20回

かまくら市民活動フェスティバル

地元ではじめる仲間づくり、まちづくり

会場に駆けつけた松尾市長の挨拶

挨拶をする平塚理事長

第20回かまくら市民活動フェスティバルは8月25日、26日に約1300名の来場者を迎え、鎌倉生涯学習センターで開催されました。2018年はNPOセンター設立から20周年の節目にあたるため、記念事業の一環としてフェスティバルを位置付け、映画上映やミニセミナーなど例年にない企画を盛り込みました。今回のテーマ「地元ではじめる仲間づくり、まちづくり」は、これからの市民活動を持続可能なものにしていくためには、まず人の力、地元の課題に関心を持ち、市民活動に参加する人の輪をひろげなくては、という私たちの思いを表現したものです。

ホールでは北鎌倉女子学園高等学校、七里ガ浜高等学校の吹奏楽演奏を皮切りに、松尾崇市長の挨拶の後、ドキュメンタリー映画『おだやかな革命』を上映、

ホール会場で行われた北鎌倉女子学園高校（上）と七里ガ浜高校（下）の音楽会

生活や土地管理など様々なことを専門のスタッフと話し合い、意見交換が出来る相談コーナー

SDGsバザールの講習風景

おはなし会（上）や似顔絵体験（下）などが楽しめるふれあいコーナー

地下ギャラリーパネル展示コーナー（上・下）

環境ジャーナリスト枝廣淳子さんの映画「おだやかな革命」の監督渡辺智史（右）による特別対談

めぐみの森（三浦郡葉山町）での活動報告をする七里ガ浜高校ボランティア部

北鎌倉女子学園のボランティアグループ「ＳＰＩＣＥ」の活動報告発表

上映後には監督の渡辺智史さんと環境ジャーナリストの枝廣淳子さんによる対談という形で映画のテーマをさらに深めていただきました。

一方、地下ギャラリーでは新規登録団体の積極的な出展や「地域デビュー楽しみ隊」による「セカンドライフセミナー」、高校生による「ボランティア活動のポスターセッション」、「かまくらファンド報告会」、おなじみの「似顔絵コーナー」、「名刺作りコーナー」、「ロボットコーナー」、「未病・健康コーナー」などフェスティバルらしい交流と賑わいが随所に見られました。また、2017年にできなかった複数の市民活動団体間の共催企画も「ＳＤＧｓバザール」として実現することができました。

さらに2017年に引き続き、市内の学生にボランティア参加を呼び掛け、フェスティバルの運営に加わってもらいました。吹奏楽の演奏、ホールでの司会、バザーの販売のお手伝いから最後の撤収片付けまで本当に頑張ってくれました。

参加63団体の皆さま、市職員各位、学校関係各位、ボランティア、市民活動センタースタッフ、そして実行委員会のメンバー、皆さまのご協力により、20周年にふさわしいフェスティバルを開催することができました。

フェスティバルの様子を写真と共にご紹介します。

会場入口前で行われたバザー

売り上げが「かまくらファンド」に寄付されるバザー

Kamakura
Citizen Activity Festival

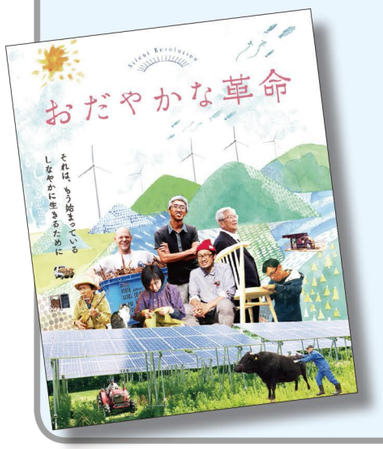
映画「おだやかな革命」と特別対談

映画は自然エネルギーによる地域再生の事例に取材していますが、その中で描かれている「暮らしの選択」や「人のつながり」「持続可能な地域経済」はどの地域にも通じる価値観でした。

会場からは「未来へ生きる希望が湧いた」「地域の新たな試みに、勇気、元気をいただいた」等の感想があり、「本当の豊かさ」や「仲間づくり、まちづくり」を考える上で有意義な時間を皆さまと共有できたと思います。

映画の上映後には、監督の渡辺智史さんと環境ジャーナリストの枝廣淳子さんによる特別対談が行われました。この映画のテーマを掘り下げる貴重な対談の一部をお届けします。

渡辺智史さん（右）と枝廣淳子さん



枝廣 なぜ、こういう映画を？

渡辺 3・11とその後に出された「地方消滅レポート」に衝撃を受けて、希望の持てる映画を作りたかったのです。

枝廣 若い人たちが、都会ではなく田舎に自分らしく生きる場があると思って、移住しています。渡辺さんが言う「根っこのある暮らし」って何ですか？

渡辺 地域にある伝統的な文化とか食べ物を通じて、そこにいる人達とつながり、帰属意識を持てる生活でしょうか。

枝廣 人口減少社会に希望があるとすればどこですか？

渡辺 ポジティブな価値観への転換かな。もう、上からお金が降りてこないので、自治する力、自分たちで財源を確保する、作る喜びといった志向性でしょう。

Kamakura Citizen Activity Festival

持続可能な社会のために ～SDGsバザール

団体共催企画として「プラスチックの氾濫」「訪日観光マナー」「食品ロス」など鎌倉の日々の暮らしに関わるテーマとSDGs（持続可能な開発目標）の関係を知るためのテーブルを用意しました。パラソルのもとに集まった方々の間で様々な話題が飛び交い、SDGsについての理解が深まりました。

人生100年時代の「セカンドライフセミナー」

セカンドライフかまくら（生涯現役促進地域連携鎌倉協議会）と市民活動センターの共催企画として、埼玉で活躍する「地域デビュー楽しみ隊」の高荷和久さんを講師にお招きし、地元でワクワク過ごすためのミニ講座を行いました。地元ではじめる仲間作りのヒント満載、会場からは質問が続出し、非常に盛り上がりました。

かまくらファンド報告会

今回のフェスティバルでは、「NPO支援かまくらファンド」の報告会と相談コーナーを設けました。

「NPO支援かまくらファンド」は、活動資金の調達が難しい市民活動団体に対して、NPOセンターに寄せられた寄附金を使って資金を助成するシステムです。

「ファンド報告会」では、昨年11月の審査会において資金助成を受けた次の6団体が活動報告を行いました。鎌倉ドローン協会、鎌倉常盤山の会、JIAOLIU鎌倉、minamo、鎌倉評論、Art for Children's SHINE。

「相談コーナー」では、ファンド応募に向けての相談を受けました。本年はNPOセンター設立20周年事業の一環として、助成金の総額を100万円に増額しています。

地下1階踊り場では、いただいた品物をリサイクルバザーで展示販売しました。バザーでの売り上げは、かまくらファンドの助成金に充当させていただきました。

高校生×市長 座談会

フェスティバルの合間をぬって、松尾市長と20周年記念誌の取材をされた鎌倉学園、北鎌倉女子学園の皆さんにより、鎌倉の市民活動をテーマに座談会が開催されました。

「鎌倉の市民活動の特徴は？」との質問に、市長は、「文化財があって、自然も豊かで、市民活動を通じて、いろいろな国の人達も来て、様々なものを受け入れる包容力のある街になっていると思う」と答えました。

市長は学生さんたちにどのようなボランティアに参加したかと聞き、様々なボランティア活動に参加した体験談やその思いに熱心に耳を傾けていました。

フェスティバルに参加して（高校生の感想より）

- 普段やらないことをやったので楽しみながらできました。話しかけてくださる方が多くてうれしかったです。
- 知らない方でもにこやかに挨拶してくれるのが嬉しかったです。普段、あまり関われない人と交流できて、良い経験になったなと思います。
- 鎌倉で今どんな市民活動が行われているかがわかった。
- 昨年出た反省点などを今年のホールイベントの司会でいかすことができてよかったです。高校生になって2回とも参加できたので、来年もやりたいと思いました。
- いろんな団体のことを1ケ所で知ることができるのはよいと思いました。興味深いパネルブースがたくさんあって楽しかったです。
- 自分たちと同じようにボランティア活動している学生の意見を知ることができて、新鮮でした。

市民活動について語り合う松尾市長と高校生たち

鎌倉市市民活動センター　20年間のあゆみ

鎌倉市市民活動センター開設から20年――。鎌倉市との二人三脚で、外に向けては「市民活動の普及推進」、内に向けては「活動基盤となる組織作り」に精力を注いできました。現在まで続く市民活動フェスティバル、利用登録団体懇話会、かまくらファンド、市との協働事業促進など、ほとんどの活動の礎は「創業10年」までの間に固められたと言ってよく、中でも市との協働事業促進は「行政と一体になって市民活動を発展させる」という、センター設立の理念を具現したものとして特筆されるべきでしょう。

当初、センターの活動は鎌倉市からの委託事業でしたが、平成18年からは市の「指定管理事業」として新しいスタートを切りました。団塊世代サラリーマンの大量退職という時代潮流に呼応し、『余力十分』な人々を市民活動へと誘引すべく「団塊プロジェクト」が立ち上がり、1年間にわたる活動を展開しました。また、市民が自由に参加できるオープンマーケット「鎌人いち場」もこの年にスタート。回を重ねるごとに拡大発展を見せています。

鎌倉市市民活動センターは平成25年に、より高い公益性が求められる「認定ＮＰＯ法人」の認証を得て今日に至っています。国が特別に認可した「品格あるＮＰＯ」の証となるものです。しかし、これは私たちにとってのゴールではありません。『市民活動の持続可能な未来』への熱い思いをみんなで共有し、さらなる高みを目指そうではありませんか。

since 1996

西暦	平成	月	市民活動センター設立準備期間	日本・鎌倉市	世界
1996	8	7	鎌倉市公募による「鎌倉市市民活動支援検討委員会」を設立	インターネットブーム	金大中大統領就任
		10	「市民活動の実態調査」をアンケート方式で実施 市民活動情報誌「鎌倉パートナーズ」発刊		
1997	9	3	設立検討委員会が支援理念と基本方針を鎌倉市に提言	平成不況、大手証券倒産 介護保険法施行	香港、中国へ返還 英国ダイアナ妃死去

西暦	平成	月	市民活動センター設立より 10 年間	日本・鎌倉市	世界
1998	10	1	**「鎌倉市市民活動センター運営会議」を設立** ※ＮＰＯを支援する中間支援組織として登録団体のＮＰＯ法人化を促進	金融機関倒産相次ぐ	コソボ戦争（セルビア）
		2	第１回公開フォーラム開催　「元気な市民活動をめざして」	２年連続マイナス成長	
		5	**「ＮＰＯセンター鎌倉」「ＮＰＯセンター大船」開設** ※全国初の「公設市民運営」の NPO センター （行政の施設を市民自身が市民活動のために運営）	特定非営利活動促進法施行	
1999	11	3	第１回登録団体懇話会開催（以降継続的に開催）	大手金融機関へ公的資金投入 東海村ＪＣＯ臨界事故	マカオ、中国へ返還
		5	第１回かまくら市民活動の日フェスティバル開催（以降毎年開催）		
		7	**鎌倉市市民活動センター運営会議が神奈川県より特定非営利活動法人の設立認証を取得**		
		12	第１回正会員による全員会議開催（以降継続的に開催）		
2000	12	10	鎌倉市民活動白書「風と潮流」を全国に向けて発信 ※鎌倉の市民活動の歴史と現状、これからの市民活動の姿を描き出す。 ※全国より NPO センターへの視察相次ぐ。	三宅島噴火で全島民避難	初の南北朝鮮首脳会談

西暦	平成	月	市民活動センター設立より 10 年間	日本・鎌倉市	世界
2001	13	1	**かまくらファンド創設**　※市民が市民の社会貢献活動を支える資金	小泉内閣発足 「構造改革」	9.11 同時多発テロ
		3	ＮＰＯ国際シンポジウム開催　※市民活動先進国アメリカの事例に学ぶ。		
		10	鎌倉市職員への協働の意識調査を実施		
2002	14	3	鎌倉における NPO と行政との協働について市長に提言	北朝鮮拉致被害者５人帰国 日韓共催サッカー W 杯開催	ＥＵ通貨統合
2003	15	2	**「協働推進研究会」設立** ※鎌倉における協働の基本的ガイドライン 「ＮＰＯと市が共に汗する仕組み作り」を策定	いざなぎ景気 （戦後最長好景気）	米国イラク攻撃 フセイン政権崩壊
2004	16		市民活動センターホームページのリニューアル	北朝鮮拉致被害者家族帰国	アテネオリンピック 陸上自衛隊、イラク入り
2005	17	7	第１回指定管理業務受託	鎌倉市が指定管理者制度を導入	
2006	18	4	**第１回指定管理業務開始** ※以降の NPO センター業務は鎌倉市からの受託業務として推進	ワールドベースボールクラシック日本優勝	北朝鮮テポドン２・核実験
		5	高校生ボランティア支援活動「地域ボランティアエアポート」開始		
2007	19	4	**広報かまくらに「クローズアップ市民活動」を掲載** ※市民活動団体を紹介　以降隔月掲載	郵政民営化	サブプライム住宅ローン危機
		8	市民活動団体と鎌倉市とによる協働事業を募集・開始　以降継続		
		11	イヤーラウンド（自主的にウオーキングを楽しむ通年ウオーク）事業開始		
2008	20	1	「鎌倉団塊プロジェクト実行委員会」	後期高齢者医療制度施行	北京オリンピック リーマンショック
		2	**鎌倉団塊プロジェクト**（H20.2 ～ H21.3）全 12 回の活動展開		
		5	**10 周年記念フェスティバル** ※鎌倉市生涯学習センターにて４日間開催（来場者　3,150 人）		

西暦	平成	月	市民活動センター　この 10 年間	日本・鎌倉市	世界
2009	21	3	10 周年記念誌発行「新しい市民社会の構築」	民主党政権誕生	オバマ大統領就任 米国ゼネラルモータース倒産
		7	市民交流の場としてのオープンマーケット「鎌人いち場」　第１回開催 ※運営会議が生み育てた事業の一つ。		
2010	22		御成通り商店街の要請に応えて「御成ぼんぼり祭り」に参加する。	円高・ゼロ金利復活 JAL 倒産	ギリシャ財政危機
2011	23	3	**東北支援活動積極展開**	**東北大震災 福島原発大惨事**	アラブの春
		4	**第２回指定管理業務開始**		
2012	24	1	「玉縄祭り」に参加して地域交流を図る。	尖閣諸島国有化宣言 衆院選　自民圧勝	中国習近平総書記就任 シリア内戦の泥沼化
2013	25	6	**認定特定非営利活動法人の資格認証取得** ※より高い公益性を備えている事が認められた。	富士山が世界遺産に	アルジェリア人質事件 シリア内戦混迷
2014	26	10	市民交流の場として鎌倉生涯学習センターに「きららカフェ」開設	富岡製糸工場が世界遺産に	ウクライナ情勢緊迫
2015	27	4	新春コンサート開催　※活動資金確保の為の自主事業の一環	マイナンバー制度施行	自爆テロ多発 欧州難民危機
2016	28	4	**第３回指定管理業務開始**　※フェイスブックページを立ち上げる。	選挙年齢 18 歳引き下げ 日銀マイナス金利導入	英国 EU 離脱決定 欧州ポピュリズム台頭
2017	29		団体向けマネジメント研修の活発化	衆院抜打解散・総選挙 森友・加計問題	トランプ大統領就任 北朝鮮核・ミサイル実験 韓国朴大統領罷免
2018	30	5	**市民活動センター開業 20 周年** ※特別 100 万円かまくらファンド　20 周年記念フェスティバル記念誌発刊	日本各地で甚大な自然災害多発	平昌オリンピック 米朝首脳会議開催 米中貿易戦争勃発
		6	**認定 NPO 資格継続申請承認**		

20年間のあゆみに添えて

鎌倉市市民活動センターを支えてきた方々

介護の現場から自らのゆく道を考える

★樽井 彰子

鎌倉市市民活動センターの開設当初、高齢者支援の市民活動に参加する女性たちでセンターは賑わっていた。全員会議も男性の活動家は少なく、彼らに「ヒエラルキー社会で身についた垢は落として参加して」と豪語していたのが懐かしい。住み慣れた我が家で暮らし続けたいという願いのもとに始まった活動であったが現実には寄る年波には勝てず、一人、二人と活動から離れた人達も多い。それでも白髪を染めて、今もって現場で活動を続けている人達も少なくない。

団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年は目前に迫っている。終末期はどこで？　という問いに、以前は住み慣れた我が家でという声が多かったが、最近では施設で、病院でという声が多くなった。病院は、治療が終わったら、即退院です。さて、施設は？　このままでは、私たちが介護年齢になる頃は介護人材不足で、施設は閉鎖！　そんな現実が起こるかもと予測されています。当てにする外国籍の介護スタッフも、日本より中国の方が働きやすいと去っていく。さて、どうするか！

まず、第一は自分自身が元気で長生き。次なるは「やるっきゃないよね！」と始まった住民参加型の助け合い活動。30年前に頑張ったけど、若い世代にどう伝えようか？　人の役に立てる喜びをどう伝えるか？　子育て世代と共に活躍する活動の場づくりから、鎌倉育ちの介護人材の養成を協働で取り組みませんか？　と願っているこの頃です。

20周年を迎えて

★松本 陽子

このたび、鎌倉市市民活動センターが2005年に発行した『鎌倉市民活動白書：風と潮流＝これからの地域と市民社会』を読み返してみました。

鎌倉にNPOセンターが設立されたきっかけは、横浜駅の近くにできた「かながわ県民活動サポートセンター」のような市民活動の拠点が欲しいと市長にお願いしたことです。

行政から「建物は提供するが、運営は市民自らが行うこと（公設市民運営）」という返事があり、公募で参加した35団体で「市民サポート委員会」がスタートしました。35人全員で議論し、決めていこうと大円卓会議方式をとることになりました。多数決ではなく35人が納得するまで話し合うので時間とエネルギーがかかりました。2年間の議論を経て、1998年5月1日、日本で初めての鎌倉と大船に、公設市民運営のNPOセンターがスタートしました。

オープンの日、今後は3つの原則を大事にすることが確認されました。

①メンバーが同じ目線で考える大円卓会議方式で

②状況に応じていつでも方法を変えられる朝令暮改で

③困難も楽しみに変えて

オープンしたての頃は、「NPOってなーに」「市民活動ってなーに」「中間支援組織ってなーに」「協働ってなーに」という質問がよくありました。

鎌倉市市民活動センター運営会議の目的は「市民と行政の協働」です。「公」でしかできない領域と仕事があると同時に、市民にしかできない「私」の領域と仕事があります。この「公」と「私」が役割分担し、それぞれ責任をもってすすめる「共」の領域があり、そこで大切なのが、「市民と行政の協働」です。鎌倉市NPOセンター設立の目的は、まさに「協働」で、この流れを市民と行政の中にさらに広く深くいきわたらせることでした。これからの鎌倉市NPOセンターに求められるのは、市民活動団体同士の協働や市民活動団体と行政や企業との協働を進めていくことです。地域の市民が主体となり、自らの社会と暮らしを創造していく、こうしたことへの積極的支援です。

これからの鎌倉市市民活動センター運営会議に、21世紀において鎌倉市に市民社会を確立していくため、確かで光に満ちた歩みを期待しています。

次の20年は？

★土屋　真美子

鎌倉市市民活動センター20周年、おめでとうございます。

20年って、あっという間ですね。20年前、センター設立に向けて、外からのお手伝い、という立場で関わっていた私は、センターにかける鎌倉市民の熱い思いに圧倒されていました。話し合いには毎回多数の方が参加し、夜遅くまで熱心に議論。「アンケートでデータを把握しよう」「オープン前に実験的に開設して、開設時間を決めよう」などなど、いろんなアイデアが出てきました。しかもアイデアを出すだけでなく、言ったからには自分たちでやる、という市民活動の原点があちこちに見られ、お手伝いの私は、皆さんの指示に右往左往しつつも、久しぶりに文化祭のノリみたいなものを味わったのを思い出します。

20年たって、市民活動を担う人たちが必要とするモノもずいぶん変化しています。市民活動団体は、行政や企業よりも先に社会のニーズに気づき、先行して取り組みをはじめる存在だと言われています。そうした団体を支援する中間支援組織は、団体よりも半歩先にニーズを把握し、提案する力が求められます。

今、社会はさらに不透明感を増しています。社会の変化を敏感に察知し、団体の力になるような中間支援組織として、成長していってください。

「市民の公益」が社会を変える

★一木千恵子

鎌倉市市民活動センターの開設以前は、活動拠点が藤沢市であったため、NPOセンターのこの20年は、私の鎌倉での市民活動経験と重なります。主活動である「鎌倉演劇鑑賞会」が1994年の鎌倉芸術館オープンを期に鎌倉デビューし、地域でのつながりを模索していた頃、偶然、「市民活動支援検討委員会」公募（1996年）が目に入りました。その後、NPO法成立（1998年3月）と前後して、「NPO法かながわ条例制定に向けての研究会」に顔を出し、そこで「まちづくり情報センターかながわ（アリスセンター）」と出会いました。海外の事例を研究者から学び、支援センターの役割、求められる専門性、市民の公益、企業の社会的責任等、市民活動について多くのことをここで学びました。

一方、鎌倉市市民活動センターでは、地に足をつけての地道な活動に出会いました。女性が主に担っていた福祉分野、鎌倉独自の歴史を継承する団体、親たちがめざす自然のなかでの保育、農作業や炭焼きをしながらの公園整備、開発による環境破壊の阻止等。汗を流すことでの説得力と継続の重みを知りました。

NPO法制定はヨーロッパより100年遅れていると言われましたが、阪神淡路大震災での民間ボランティアの働きが注目され、議員立法を加速させました。この原点を忘れず、市民の公益意識の向上が社会を変えることを改めて胸にきざみたいと思います。

設立20周年に向けて

★坂齋 明

私が鎌倉市市民活動センター運営会議の仲間に入れていただいたきっかけは、平成11年に鎌倉市が発表した「かまくら行財政プラン」で、「これからの市政運営は、『協働型』『効率形』の2本柱をめざす」との宣言に目から鱗だったからだと記憶しています。

当時の運営会議を担っていたのは、藤井経三郎さんを中心に、福祉や環境などの活動分野の市民活動を精力的に実践している多くの女性たちでした。

私の職場は、男女に関係のない専門職の集団でしたが、運営会議の女性の活躍には目を見張るものがありました。

記憶に残っていることの1つとして、平成13年から平成17年ごろまでの諸活動だったのではないでしょうか。担当課の了解のもとに鎌倉市職員の方にNPOと行政との協働についてのアンケートを実施させていただきました。この調査結果をもとに研究会設立を提案し「NPOと行政職員による協働推進研究会」が発足しました。研究会の構成はNPO、行政職員で総勢10数名だったでしょうか。この研究会は3ケ年継続し報告書として「NPOと市が共に汗する仕組みづくり」をまとめました。この研究会は参加者の立場を意識しつつも垣根のない議論ができた場でした。

私にとってこの報告書はその後の市民活動の指針となっています。それから10数年経過した現在、NPO団体の運営や活動は成熟度を増してきているのではないでしょうか。

市職員の市民活動体験

鎌倉市では「市民自治」のもと、市民が市政に参画し、行政との協働による街づくりの推進を図っています。一方で鎌倉市の職員はどのような団体が、どのような活動をしているのかを一つ一つについては知らないという現状があります。市民活動に対する理解を深めるため職員が実際に活動に参加し、体験する「市民協働研修」を行っています。
平成29年に行われた研修では、延81名の職員が参加しました。
市民活動を体験した職員の方々からいただいた、たくさんの意見・感想の一部をご紹介します。
「市民と行政の協働」へまた一歩前進したことを感じます。

公益財団法人 鎌倉風致保存会

鎌倉市の観光資源のひとつであるハイキングコースの整備も市民活動によって行われていることを知りました。活動へのより活発なサポートを続けていく必要を感じました。

NPO法人 山崎・谷戸の会

市民活動に関しては参加してみたいと考えるが、なかなか初めの一歩が踏み出せない。この一日体験のようなものを市民に向けて、市が開催するのもいいと思いました。

憩い宿

市民のコミュニケーションの場となったり、楽しみの場になったりする市民活動がもっと増えていくと良いなと思いました。

NPO法人 輝き・遊っ子 楽っ子

子どもに紙芝居を読む機会はめったにないので、活動として純粋に楽しめました。親子や教育にとって、すごく意義のある活動をされていると感じました。

かまくら笑ん座

活動に参加して障害者福祉を見直す良い機会になりました。市民の皆さまがいろいろな思いをもって活動していることに共感し、自分に出来ることを探したいと感じました。

鎌倉を美しくする会

まちを綺麗に保つことに地道な努力が必要だと、改めて実感できました。研修後、とても多くの市民活動があることを知り、もっと外に目を向けなければ、と自分を見直す機会になりました。

鎌倉常盤山の会

自然の中で体を動かし、心身ともにリフレッシュできました。鎌倉のまちや歴史文化を大事にし、それを継承していこうとする市民の方々の熱意や姿、思いを、今後の業務に活かせると思いました。

NPO法人 鎌倉みどりのレンジャー

草刈り作業などの活動が文化財の保護や維持、緑地保全につながることを実感しました。また、ボランティア活動に参加している市民の方々の素晴らしさを知ることができました。

NPO法人 タウンサポート 鎌倉今泉台（コミュニティカフェ）

今泉台は全国から視察が来るほど、先進的な取り組みを行っています。「市民活動」という言葉は知っていても、実際に何をしているかを理解している職員は少ないように思います。この研修を通して経験できたのがとても良かったです。

鎌倉広町の森市民の会

普段、散歩をしている公園がこうしたボランティアに支えられていることを知り、感謝の気持ちでいっぱいです。この緑地が一つのコミュニティとなっており、市民活動は市民同士がつながりを深める場であると実感しました。

玉縄城址まちづくり会議

鎌倉で働いていながら、初めて伺う話も多く、どれも興味深く勉強になりました。市民協働や鎌倉について考える貴重な機会になりました。また、こうした活動を子どもたちにも広げていかなければならないと感じました。

鎌倉市市民活動センター運営会議とは

鎌倉市市民活動センター運営会議の役割

鎌倉市市民活動センター運営会議は、市民活動団体への様々な支援を行う部会活動と、鎌倉市の指定管理業務を行う鎌倉市市民活動センター（通称：NPOセンター鎌倉、NPOセンター大船）の管理・運営を担っています。

部会組織は以下の5つの部会からなり、各部会はいずれも運営会議の正会員であれば誰でも参加できるボランテイア活動です。

部会活動

研修部会

市民活動をしている皆様に共通なテーマを選び、年に数回、フォーラムを開催しています。

ファンド部会

市民の方々からの寄附による「NPO支援かまくらファンド」で、市民活動団体の活動を助成しています。

相談部会

会計財務、労務等の専門家相談員が、NPO・ボランティアに関する相談に応じています。

広報部会

運営会議機関紙「運営会議たより」の企画、編集、ホームページの作成等の広報を担当しています。

協働事業推進部会

NPOと市が共に取り組む仕組みづくり～システムを考え、行政と市民活動団体との橋渡し役として、活動しています。

【理事長のあいさつ】

鎌倉市市民活動センター
運営会議
平塚　優

鎌倉市市民活動センターは、2018年5月1日に設立20年を迎えました。今年は記念事業として「和をつなぐ。輪をひろげる。」の統一コンセプトのもと、これまでの活動の足跡を辿りつつ、市民活動の持続可能な未来を見据えた各種の事業を展開してきました。

諸団体が社会貢献活動を活発に推進していけるよう、団体同士のコラボレーション支援や、行政と市民活動団体の協働事業、さらには市民が諸活動に積極的参加できるような魅力的な企画を講じてまいりたいと考えています。

明日を担う若い人たちにも声をかけ、皆さまのお知恵をお借りしながら、鎌倉の市民活動の灯を守り、その光の輪がさらに大きくなりますよう、歩んでまいります。

源氏山公園へ
（葛原岡神社敷地）

桜の植込み
― かまくら桜の会 ―

永らく鎌倉市の課題であった源氏山（葛原岡神社）を桜で飾る計画の一助に!!
昭和40年代、京都・奈良と共に「古都保存法」が成立し、御谷（おやつ）騒動が終わった後、鎌倉の緑のシンボルとして葛原岡神社社有地と大船の観音山の緑化が図られました。
神社の計らいで若干の工夫を手立てられているが、再び市民、及び観光客・ハイカーの喜ぶ空間にしたい。安らぎと環境の空間、その一歩である。
往年の計画に更にもう一歩、この「NPOセンター」のお力で実り多いものに、継続的に推進したいと思います。

かまくら桜の会

若宮大路の新しい“ありよう”が、「御谷騒動」の終わった後、市民の間に盛り上がった。半世紀前、緑による「街おこし」を提唱した「かまくら緑の会」を母体に発足し、市内の寺社、公園に桜の成木1700本以上を植えてきた他、「桜による街おこし」を提唱してきた。
春の一刻とはいえ、鎌倉の野山にその姿は印象に残る。

鎌倉桜

東国の武士、足利尊氏将軍が京都に幕府をつくった際、京都御所の「左近の桜」に鎌倉生まれ（材木座）の「桐ケ谷桜」を植え、公家や武家を感嘆させたという古事、それが後の京の北を飾る桜になったという故事にあやかり、材木座生まれの八重一重の花は京都では「鎌倉桜」とも言われている。
鎌倉宮や葛原岡神社では、天皇の「御印」として尊重されている。桐ケ谷桜は「御車返し」とも言われている。

源氏山

かまくら桜の会
鎌倉市小町1－5－27カトレヤビル気付
ＴＥＬ　0467－23－2530
ＦＡＸ　0467－24－3638
メール　katoreya@viola.ocn.ne.jp

編集後記

朝、エクササイズを兼ねて家の近くの佐助隧道周辺の落葉を掃いている。始め、すぐ脇を通り過ぎる人も挨拶をしない。こちらから会釈を、そして2、3度声に出して挨拶をおくるうち、「おはようございます！」が返ってくるようになる。愛犬との散歩、お孫さんの手をひいて通る折、空模様など、徐々に話題も増えていく。「いつも綺麗にしてくださって」という言葉をかけてくださる方も。こうした些事の中にも「和をつなぐ。輪をひろげる。」の萌しがある、と感じる。
この記念誌は、市民活動団体や市職員、近隣ＮＰＯの皆さんとセンターのスタッフ、そして未来を担う若者たちとが「つながって、ひろがって」できた賜物である。
持続可能な未来に向けて――。言うほど易しくはないけれど、とりあえず明日も笑顔を忘れずに、前を向いて歩いていこう。（水谷）

北鎌倉女子学園高等学校
・取材を通して普段は知ることのないことや学べないことに触れられて良かったです。（坂上）
・初めてのボランティアだったのですが、積極的に活動することができてよかったです。（平田）
・取材ということで緊張していましたが、色々な場所に行けて楽しめました。（山浦）

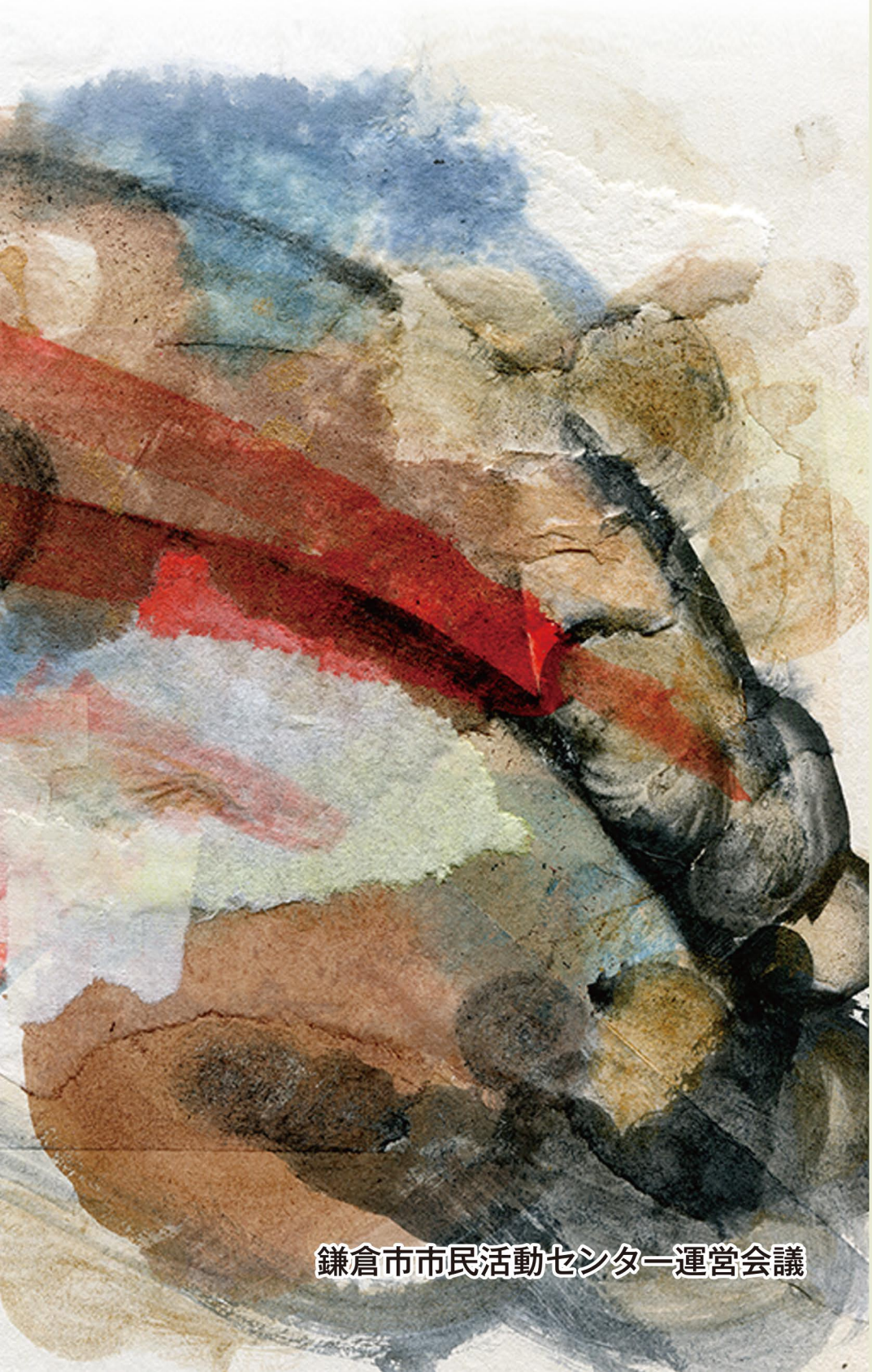
鎌倉学園高等学校
・ここ鎌倉で、自然と密着した活動を続けている竹林さんに話を伺いました。リユース食器や和器は、日々環境について考える方だからこそ思いついた事業だと感じました。これからも、自然と人とが共存して暮らしていける社会を目指していって欲しいと願っています。（滑川）
・望月さんの話を伺い、環境を保全することは動植物の生態系を守ることができるだけでなく、そこに住む人々のコミュニティを発展させることにも繋がっていくということを学びました。他の地域でもこのような活動が広がれば良いと思いました。（藤田）

ご協賛いただいた方々

浅利篤、鎌倉ガイド協会、鎌倉手作り甲冑 とんぼの会、鎌倉ユネスコ協会、ＡＭＤＡ鎌倉クラブ、かまくら段葛書道会、鎌人いち場実行委員会、さくらコミュニティケアサービス、社会保険労務士 石川勝己事務所、上州屋、新ケ谷米店、手打そば 鎌倉宮前、仏師 大森 昭夫、ゆう東洋医学研究所
（順不同、敬称略）

［鎌倉市市民活動センター20周年記念誌編集委員会］
浅井俊克　阿部芳子　楳本春子　岡田清治　中垣道子
那須修　西畑直樹　水谷紀明

Ｗｏｗ！～ 和をつなぐ。輪をひろげる。～
鎌倉市市民活動センター20周年記念誌
平成30年12月1日発行
発　行　特定非営利活動法人
鎌倉市市民活動センター運営会議
理事長　平塚　優
〒248－0041 神奈川県鎌倉市御成町18－10
ＴＥＬ　0467－60－4555
制　作　かまくら春秋社



鎌倉市市民活動センター運営会議